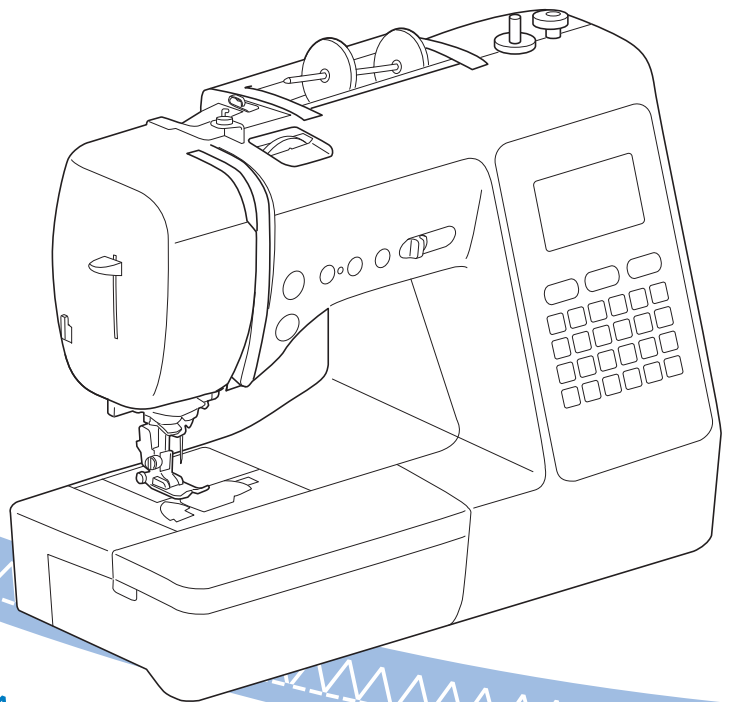


取扱説明書

コンピューターミシン
CPM79 シリーズ





- ご使用になる前に必ず取扱説明書をお読みになり、正しくお使いください。
- 取扱説明書はなくさないように大切に保管し、いつでも手にとって見られるようにしてください。
- 最新の取扱説明書は、ブラザーのサポートサイト（<https://s.brother/cpjas/>）でご覧いただけます。

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
 お使いになる前に「安全にお使いいただくために」をよくお読みいただき、取扱説明書で機能や正しい使い方を十分にご理解のうえ、末永くご愛用ください。
 また取扱説明書は、読み終わったあとも、いつでもご覧になれるところに保管してください。

安全にお使いいただくために




















取扱説明書および本製品で使われている表示や絵文字は、本製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
 その表示や意味は次のとおりです。


 警告	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

















取扱説明書で使用されている絵文字の意味は次のとおりです。

- | | |
|---|--|
|  特定しない禁止事項 |  分解してはいけません |
|  水に濡らしてはいけません |  特定しない義務行為 |
|  電源プラグを抜いてください |  特定しない危険通告 |
|  感電の危険があります |  火災の危険があります |
|  針の下に指を入れないでください | |

本製品を安全にお使いいただくために、次の事柄を守ってください。

 警告	
 	一般家庭用電源 AC100V の電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
	以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・使用中に停電したとき ・接触不良、断線などで正常に動作しないとき ・雷が鳴りはじめたとき
 注意	
 	延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
 	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
	電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。
	電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
 	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物をのせたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめてお買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
	電源コードは、赤い印以上に引き出さないでください。
	長期間ご使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。
 	直射日光の当たるところや、ストーブ、アイロンのそばなど温度の高いところでは使用しないでください。ミシンの使用温度は 0 ~ 40 °C です。ミシン内部の温度が上がったり、ミシン本体や電源コードの被膜が溶けて火災・感電の原因となります。
 	火の気のあるもののそばでは使用しないでください（火の消えていないたばこ、ろうそくなど）。火災の原因となります。

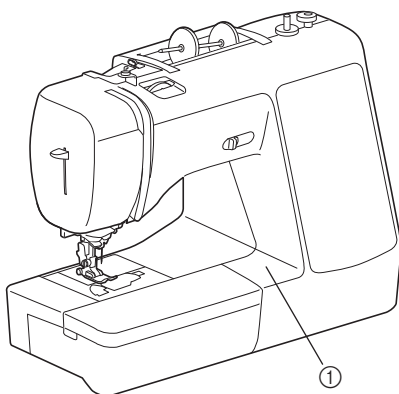
	野外でのご使用は避けてください。雨などが降り、本体が濡れて感電の原因となります。また濡れたときはお買い上げの販売店または「お客様相談室（マシン 119 番）」にご連絡ください。
	温度や湿度の高い所でのご使用や保管は避けてください。
	スプレー製品などを使用する部屋では使用しないでください。スプレーへの引火によるやけどや火災の原因となります。
	ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下などしてけがをする原因となります。マシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。
	マシン本体の換気口をふさがないでください。換気口は、必ず壁から 30cm 以上離して使用してください。また、換気口やフットコントローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。火災の原因となります。
  	マシン本体の上に花びんや水の入った容器を置くなどして、マシン本体に水をこぼさないでください。万一、内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてお買い上げの販売店または「お客様相談室（マシン 119 番）」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
  	マシン本体の換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。高圧部に触れて感電のおそれがあります。万一、異物が入った場合は、使用をやめてお買い上げの販売店または「お客様相談室（マシン 119 番）」にご連絡ください。
	マシン本体の重さは約 7kg あります。マシン本体を持ち運びする際は急激または、不用意な動作をしないでください。腰や膝を痛める原因となります。
	以下の場所に設置、保管をしないでください。故障の原因になります。 ・温度が著しく高くなる場所 ・温度が著しく低くなる場所 ・急激に温度が変化する場合 ・湿気、湯気の多い場所 ・火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所 ・屋外や直射日光の当たる場所 ・ほこり、油煙の多い場所
	マシン本体は、必ずハンドルを持って持ち運びをしてください。他の部分を持つとこわれたりすべて落としたりして、けがの原因となります。
	マシン本体には取扱説明書に記載されている付属品を使用してください。他の部品を使用するとけが・故障の原因となります。

	お客様ご自身での分解、修理および改造は行わないでください。火災・感電およびけがの原因となります。指定以外の内部の点検・調整・掃除・修理は、お買い上げの販売店または「お客様相談室（マシン 119 番）」にご依頼ください。
	取扱説明書に記載されている整備は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。けが・感電の原因となります。
	マシン操作中は、針の動きに十分ご注意ください。また、針、プーリー、てんびんなどすべての動いている部品に手を近づけないでください。 けがの原因となります。
	リッパーで穴を開ける方向に、手や指を置かないでください。すべったときにけがをするおそれがあります。本来の使用目的以外での使用はしないでください。
	針や押えなどの交換およびそのほかの機能に関する使用については、取扱説明書の指示どおりに正しく行ってください。
	縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。けが・針折れの原因となります。
	針の下などに指を入れないでください。 けがをするおそれがあります。
	上糸、下糸などに関する操作については、取扱説明書の指示どおりに正しく行ってください。取り扱いを誤ると、縫製中に糸がらみなどが発生し、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。
	曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。
	万一、マシン本体を落としたり、破損したり、故障したりした場合は、ただちに使用をやめてお買い上げの販売店または「お客様相談室（マシン 119 番）」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
 	万一、煙が出ている、異臭がする、異常音がするなどの状態のときはすぐに電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（マシン 119 番）」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。
	本製品が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄してください。かぶって遊ぶと窒息のおそれがあります。
 	お子様の玩具として使用しないでください。お子様が使用するときや、お子様の近くで使用するとき、お子様がけがをしないよう十分注意してください。
	フットコントローラーの上に物をのせないでください。けが・故障の原因となります。

- このミシンは日本国内向け、家庭用です。外国では使用できません。
This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.
職業用としてご使用になった場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。
- 仕様および外観は品質改良のため、予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製することは禁じられておりますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容について、万一不審な点や誤りなどお気づきの点がありましたら「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
- 本機をご使用になる方（お子様を含む）が、身体／知覚／精神的能力になんらかの障がいを持つ場合、あるいは経験や知識が十分でない場合には安全を保証できる責任者の監視の下でのみ本機を使用してください。
- お子様が使用するときには、玩具として使用しないよう、十分な監視の下で使用してください。

警告表示について

ミシン本体には下記の警告が表示されています。警告表示の注意事項を守って作業を行ってください。また、警告ラベルは、はがれたり、傷ついたりしないよう十分注意してください。



①



商標

「マジックテープ」は(株)クラレの面ファスナーの登録商標です。

ブラザー製品および関連資料等に記載されている社名及び商品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

目次

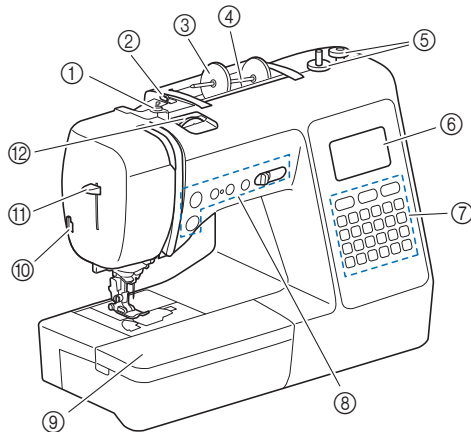
第1章	ぬう前の準備	5		
	各部の名称	5		
	付属品	7		
	別売品	7		
	電源の入れ方	8		
	液晶画面	9		
	液晶画面の見方	9		
	設定画面	10		
	操作キーの感度を調節する	11		
	下糸の準備	11		
	下糸を巻く	11		
	下糸をセットする	13		
	上糸通し	15		
	上糸を通す	15		
	下糸を引き出す	17		
	布地と糸の種類による針の使い分け	18		
	針の交換	19		
	正しい針の見分け方	19		
	針の交換	19		
	押えの交換	20		
	押えを交換する	20		
	押えホルダーを取り外す／取り付ける	22		
第2章	基本のぬい方	23		
	ぬってみましょう	23		
	ミシンかけの手順	23		
	模様を選択方法	23		
	模様を組み合わせる	25		
	基本的なぬい方	26		
	返しぬい／止めぬいをする	28		
	自動で返しぬい／止めぬいをする	28		
	自動で糸を切る	29		
	振り幅／ぬい目の長さを調節する	30		
	糸調子を調節する	30		
	上手にぬうためのヒント	31		
	上手にぬうコツ	31		
	布端から一定の距離をぬう	32		
	いろいろな素材をぬう	33		
	飾り模様をぬう	34		
第3章	いろいろなぬい方	35		
	ぬい方早見表	35		
	実用ぬい	40		
	布端を始末する	40		
	すそ上げをする	41		
	ボタン穴かがり	42		
	ボタンつけ	45		
	ファスナーつけ	46		
	アップリケ／パッチワーク／キルトぬい	48		
	その他のぬい方	51		
	模様の調整をする	55		
	模様の記憶	56		
	模様を記憶させる	56		
	模様を呼び出す	56		
第4章	付録	57		
	お手入れのしかた	57		
	注油に関して	57		
	ミシンを保管するときのご注意	57		
	かまの掃除	57		
	困ったとき	59		
	上糸がつる	59		
	布裏で糸がからまる	59		
	糸調子が合わない	60		
	布がミシンに入り込んでとれなくなった	61		
	ボビン受け座の下に糸がからまってしまった	63		
	こんなときは	64		
	エラーメッセージ	67		
	電子音について	68		
	仕様	69		
	索引	70		

第1章 ぬう前の準備

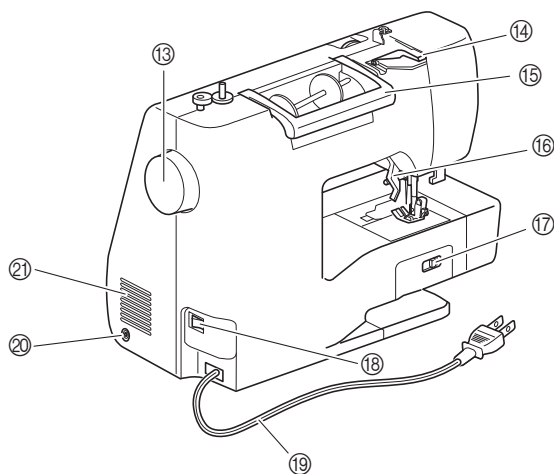
各部の名称

■ 主要部

□ 正面



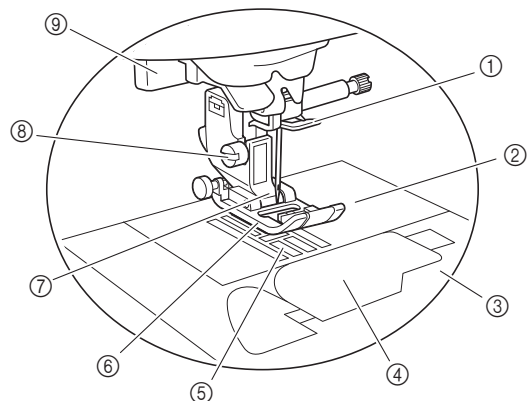
□ 右側面・背面



- ① 下糸巻き案内 (P.12)
- ② 糸案内 (P.12)
- ③ 糸こま押え (P.12)
- ④ 糸たて棒 (P.12)
- ⑤ 下糸巻き装置 (P.11)
- ⑥ 液晶画面 (P.9)
- ⑦ 操作パネル (P.6)
- ⑧ 操作スイッチとスピードコントロールレバー (P.6)
- ⑨ 補助テーブル (P.7)
- ⑩ 糸切り (P.16)
- ⑪ 糸通しレバー (P.17)
- ⑫ 糸調子ダイヤル (P.30)

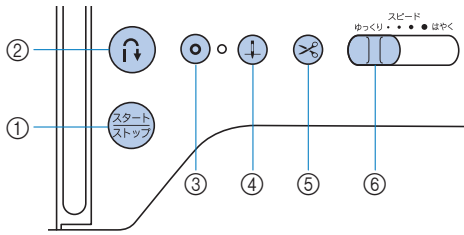
- ⑬ プーリー
ぬい目を1針ずつ送ったり、針を上げ下げしたりするときに手前に回します。
- ⑭ 糸案内カバー (P.12)
- ⑮ ハンドル
ミシンを持ち運ぶために使用します。
- ⑯ 押えレバー
押えを上げ下げします。
- ⑰ ドロップレバー
送り歯を下げるのと、元に戻すときに使用します。(P.50)
- ⑱ 電源スイッチ (P.8)
- ⑲ 電源コード (P.8)
- ⑳ フットコントローラージャック (P.27)
- ㉑ 換気口
モーターの換気用の穴です。ミシンを使用しているときはふさがらないでください。

■ 針と押え部分



- ① 針棒糸かけ (P.16)
- ② 針板 (P.32)
- ③ 針板カバー (P.14)
- ④ 針板ふた/内かま (P.14、58)
- ⑤ 送り歯
ぬう方向に布地を送ります。
- ⑥ 押え
布地を押さえます。ぬい方に合った押えを取り付けてください。
- ⑦ 押えホルダー (P.22)
- ⑧ 押えホルダーのネジ (P.22)
- ⑨ ボタン穴かがりレバー (P.43)

■ 操作スイッチ



- ① **スタート/ストップスイッチ**

このスイッチを押すと、ミシンをスタートまたは停止します。
- ② **返しぬいスイッチ**

このスイッチを押すと、模様によって返しぬいまたは止めぬいします。(P.28)
- ③ **止めぬいスイッチ**

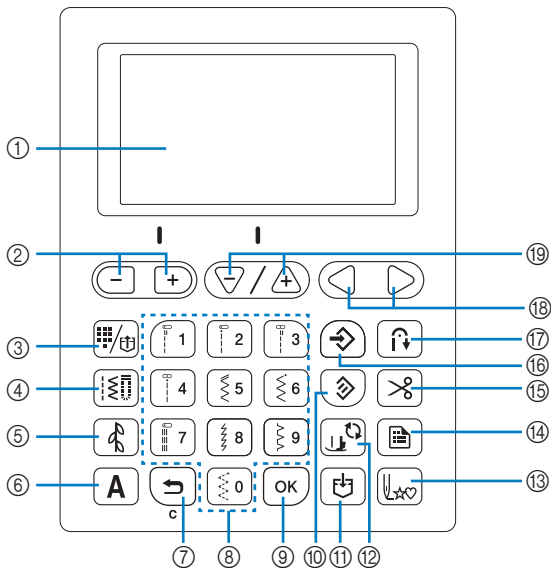
このスイッチを押すと1針ぬいを繰り返した後で、止めぬいします。(P.28)
文字模様/飾り模様をぬっているときにこのスイッチを押すと、模様を最後までぬってから止めぬいをします。
ボタンの横にあるLEDは、模様をぬっている時に点灯し、ぬい終わると消灯します。
- ④ **針上下スイッチ**

このスイッチを押すと、針の位置の上下が切り替わります。
2回押すと、1針ぬいができます。
- ⑤ **糸切りスイッチ**

ぬい終わった後にこのスイッチを押すと、上糸と下糸を切りまします。
- ⑥ **スピードコントロールレバー**

このレバーを左右に動かして、ぬう速さを調節します。

■ 操作パネルと操作キー



- ① **液晶画面**

選択した模様の設定値や、エラーメッセージが表示されます。(P.9)
- ② **振り幅調節キー/設定画面ページ選択キー**

模様の振り幅を調節するときや、設定画面で前後のページへ移動するときを押します。
- ③ **ダイレクト選択/模様呼び出しキー**

数字キーに割り当てられた実用模様をダイレクト選択するとき、または記憶しておいた模様を呼び出すときに押します。

- ④ **実用模様キー**

実用模様を選択するときを押します。
- ⑤ **飾り模様キー**

飾り模様を選択するときを押します。
- ⑥ **文字模様キー**

文字模様を選択するときを押します。
- ⑦ **戻るキー**

操作をキャンセルし、液晶画面の表示を1つ前に戻すときに押します。
文字模様、飾り模様を組み合わせられているときに押すと、最後に追加した模様を削除します。
- ⑧ **数字キー**

使用する頻度の高い10模様の中からひとつを選択するときを押します。その他の模様を選ぶ際は、模様番号を入力するのに使います。
- ⑨ **OKキー**

選択した内容を確定したり、操作を実行するときを押します。
- ⑩ **模様設定リセットキー**

選択した模様の設定を初期値に戻すときに押します。
- ⑪ **組み合わせ模様記憶キー**

組み合わせた模様を記憶することができます。
- ⑫ **針・押え交換キー**

針や押えを交換するときなどに押します。ミシンが作動しないように他のすべてのキーと操作スイッチがロックされます。
- ⑬ **模様の頭出しキー**

停止中に押すと、縫製中の模様を先頭に戻すことができます。
- ⑭ **設定キー**

設定画面を表示するときや設定画面で次のページへ移動するときを押します。
- ⑮ **自動糸切りキー**

自動糸切りを設定するときを押します。
- ⑯ **模様設定記憶キー**

振り幅やぬい目の長さの設定を記憶させておくときに押します。
- ⑰ **自動返しぬい/止めぬいキー**

自動返しぬい/止めぬいを設定するときを押します。
- ⑱ **設定値選択キー**

設定画面で設定値を変更するときを押します。
- ⑲ **ぬい目の長さ調節キー/設定項目選択キー**

ぬい目の長さを調節するときや、設定画面で設定する項目を選択するときを押します。

💡 お願い

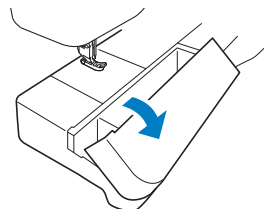
- 操作キーは静電容量式タッチセンサーです。指で直接触れて操作してください。
操作する人によって反応が異なりますが、キーを押す強さによって反応が変わるわけではありません。
- 操作キーは操作する人によって反応が異なりますので、「操作キーの感度を調節する」(P.11)を参照して感度の設定を調節してください。
- 市販の静電容量式に対応したタッチペンを使用する場合は、タッチペンの先が8mm以上のものを使用してください。先の細いタッチペン、特殊な形状のタッチペンは使用しないでください。

付属品

箱を開けたら、付属品が揃っていることを確認してください。不足しているときや破損しているときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

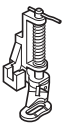
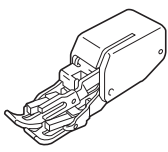
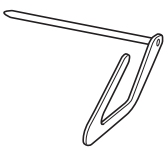
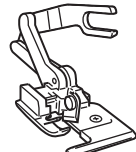
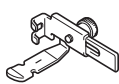
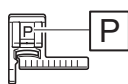
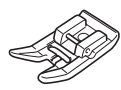
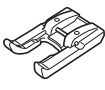
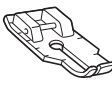
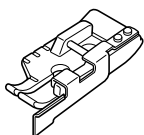
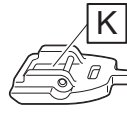



付属品については、別紙「付属品」を参照してください。

補助テーブルのふたを開けると、付属品収納スペースがあります。



別売品

別売品・部品についてはお買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にお問い合わせください。

1.  キルト押え (モデル名: F005N)	2.  ウォーキングフット (モデル名: F033)	3.  キルター (モデル名: F016N)	4.  サイドカッター押え (モデル名: F054)	5.  片押え (モデル名: F036N)	6.  ステッチガイド押え<P> (モデル名: F035N)
7.  スムーズフット (モデル名: F007N)	8.  アップリケ押え (モデル名: F060J)	9.  ピーシング押え (モデル名: F001N)	10.  ガイド付きピーシング押え (モデル名: F057)	11.  コンシール®ファスナー押え <K> (モデル名: F080AP)	12.  ワイドテーブル (モデル名: WT15AP)
13.  フットコントローラー (モデル名: FC32291、 型式: MODEL T)	14.  ボビン (モデル名: B051 (5 個入り)) (モデル名: B101 (10 個入り))				

お知らせ

- 仕様は予告なしに変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

電源の入れ方

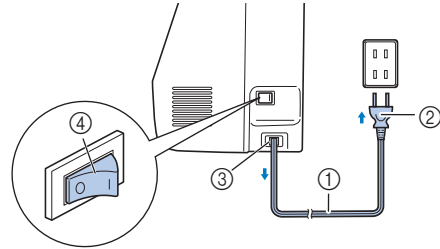
⚠ 警告

- 一般家庭用電源 AC100V の電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 次のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。
 - ミシンのそばを離れるとき
 - ミシンを使用したあと
 - 使用中に停電したとき
 - 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
 - 雷が鳴りはじめたとき

⚠ 注意

- 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
- 長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。

- 1 電源スイッチが「切」になっている（「○」側を押してある）ことを確認します。
- 2 電源コードを引き出し、電源プラグを家庭用電源コンセント（AC100V）に差し込みます。

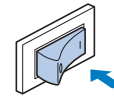


- ① 電源コード
- ② 電源プラグ
- ③ 赤い印
- ④ 電源スイッチ

💡 お願い

- 電源コードは、赤い印以上引き出さないでください。

- 3 ミシン本体右側面の電源スイッチの右側（I 側）を押して「入」にします。



→ 電源が入り、ライトと液晶画面が点灯します。針や送り歯が動くとき音がしますが、故障ではありません。

💡 お願い

- 初めて本機の電源を入れたときは、液晶画面に表示する言語を選択し、**OK** を押してください。

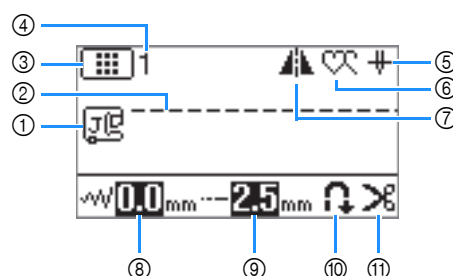


- 4 ミシンの電源を切るには、電源スイッチの左側（○側）を押して「切」にします。

液晶画面


液晶画面の見方



電源を入れると、液晶画面が点灯し、以下のような画面が表示されます。
表示されている内容を変更するには、画面の下にある操作キーを使います。






No.	表示	名称	はたらき	参照ページ
①		押え表示	押え記号を表示します。ぬう前に、ここで表示している押えを取り付けてください。 ジグザグ押え< J > まつりぬい押え< R > 模様ぬい押え< N > ボタン付け押え< M > たち目かがり押え< G > サイドカッター押え< S > (別売) ボタン穴かがり押え< A > * 片押え< I >やキルト押えなど、液晶画面に表示されない押えもあります。	20
②	-	模様イメージ	選択中の模様イメージを表示します。	-
③		模様カテゴリー表示	選択中の模様カテゴリーを表示します。 実用ダイレクト選択模様 実用模様 飾り模様 (カテゴリー 1 : 飾り模様) 飾り模様 (カテゴリー 2 : 飾りサテンステッチ/サテンステッチ/クロスステッチ) 飾り模様 (カテゴリー 3 : 実用飾り模様) 文字模様 (ゴシック体) 文字模様 (筆記体) 文字模様 (アウトライン文字) 文字模様 (ひらがな/カタカナ/数字/漢字)	23
④	-	模様番号表示	選択中の模様番号を表示します。	35
⑤		針位置設定表示	ミシンが停止しているときの針位置が上下どちらに設定されているかを表示します。 針位置下 針位置上	10
⑥		連続/単独ぬい設定表示	単独ぬいと連続ぬいのどちらに設定されているかを表示します。 単独ぬい 連続ぬい	10
⑦		左右反転設定表示	模様が左右反転しているときに表示します。	10
⑧		振り幅設定表示	選択中の模様設定されている振り幅を表示します。	30
⑨		ぬい目の長さ設定表示	選択中の模様設定されているぬい目の長さを表示します。	30
⑩		自動返しぬい/止めぬい表示	自動返しぬい/止めぬいが設定されているときに表示します。	28
⑪		自動糸切り表示	自動糸切りが設定されているときに表示します。	29



設定画面

 を押すと、設定画面が表示され、ミシンのさまざまな設定を変更することができます。

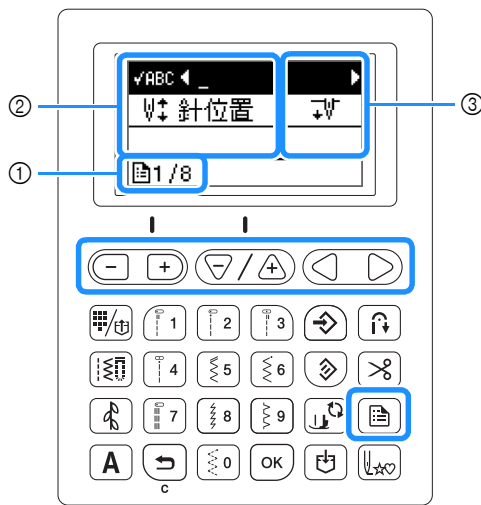
設定画面のページを移動させるときは、  を押します。

*  を押すと、設定画面の次のページに移動します。

前後の設定項目に移動するときは、 /  を押します。

選択した設定項目の値を変更するときは、  を押します。

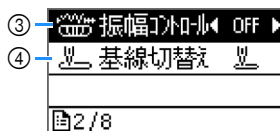
設定が終わったら   を押し、元の画面に戻ります。



- ① ページ数
- ② 設定項目
- ③ 設定項目の値 (設定状態)



- ① 模様全体が画面に表示しきれない場合に、模様を確認するのに使用します。
- ② ミシンが停止したときの針位置 (上/下) を選択します。

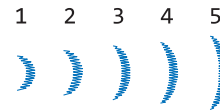


- ③ この設定を [ON] にすると、スピードコントロールレバーがジグザグの振幅調節レバーに切り替わります。(P.51)
直線ぬいが選択されているときは、スピードコントロールレバーで針位置を切り替えることができます。(P.32)

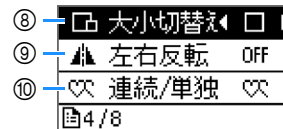
- ④ 電源を入れたときに自動的に選択される模様として、「01 直線 (左基線)」または「03 直線 (中基線)」を選択します。



- ⑤ サテンステッチの模様を選択しているときに、振り幅・ぬい目の長さを変更せず、模様の長さを変更します。5段階から選択することができます。



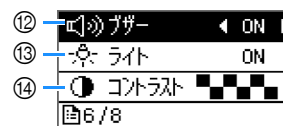
- ⑥ 飾りサテンステッチの模様を選択しているときに、糸の密度を変更します。
- ⑦ 文字模様の文字間を変更します。設定値が大きいほど文字間は大きくなり、設定値が小さいほど文字間は小さくなります。



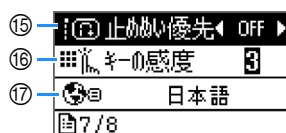
- ⑧ 手書き文字模様を除く文字模様の大きさを変更します。
- ⑨ [ON] にすると、模様が左右に反転します
- ⑩ 模様を組み合わせているときに単独ぬいをするか連続ぬいをするかを選択します。連続ぬいを選択している場合、手動で止めるまで模様が繰り返しぬわれます。単独ぬいを選択している場合、1サイクル分ぬって自動的に止まります。



- ⑪ 模様をたて方向に調整します。(P.55)



- ⑫ 操作音の ON/OFF を選択します。
- ⑬ ミシンのライトの ON/OFF を選択します。
- ⑭ 液晶画面の明るさを調節します。



- ⑮ この設定を [ON] にすると、返しぬいスイッチを押しても止めぬいをします。(P.28)
- ⑯ 操作キーの感度を調節します。(P.11)
- ⑰ 液晶画面に表示される言語を設定します。



- ⑱ ミシンにインストールされているプログラムのバージョンです。

操作キーの感度を調節する

操作キーの感度は、5段階から選択することができます。設定画面で、使いやすい感度を選択してください。

- 1 を押して設定画面の7ページを表示し、 (キーの感度) を選択します。

- 2 を押して、感度を調節します。



- 数値が高いほど感度は高くなります。初期設定値は、[3] です。
- 市販の静電容量式に対応したタッチペンを使用する場合は、感度を最高に設定することをおすすめします。
- 感度を調節しているときに数字キーを押すと、操作キーが反応しているかどうかを確認することができます。操作キーが反応している場合、感度を示す設定値が点滅します。

■ 操作キーを押してもミシンが動かないときは

④ (針上下スイッチ) を押しながらミシンの電源を入れてください。キーの感度の設定がリセットされます。その後、設定の画面で、感度の調節をしてください。

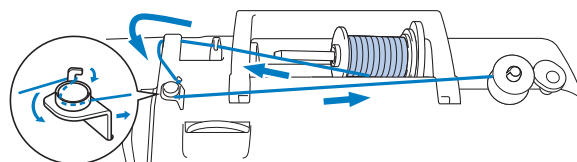
下糸の準備

⚠ 注意

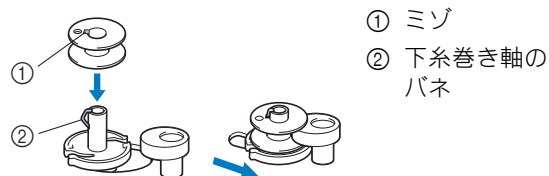
- 付属のボピンは本機純正品です。必ず純正ボピンをご使用ください。ボピンの高さは11.5mmです。純正品以外の付属品使用による故障は、保証期間中でも有償修理となります。
- ※ 純正品以外のものすべてが必ず不具合を起こすわけではありません。
- 過去に製造された純正ボピンには「b」マークが刻印されていないことがありますが、高さ11.5mmの純正ボピンである場合、使用できます。

下糸を巻く

下糸用の糸をボピンに巻きます。



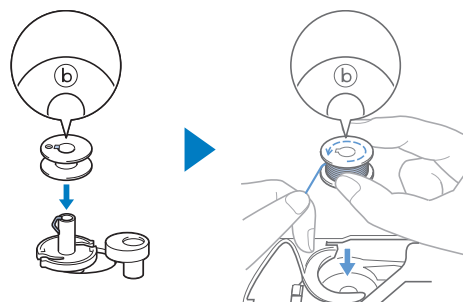
- 1 ボピンのミゾと下糸巻き軸のパネの位置を合わせてセットし、カチッと音がするまでボピンを右側に押しします。



📄 お知らせ

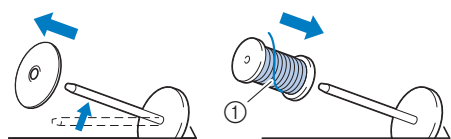
- セットしたボピンの向きを確認しておく、後の手順で参考になります。同じ向きでボピンをかまにセットする (P.14 手順⑦) ことで、正しい巻き方向で下糸がセットされます。

本機付属ボピンの片面には「b」マークが刻印されていますので、参考にご使用ください。



2 糸こま押えを取り外し、下糸用の糸こまを糸たて棒に取り付けます。

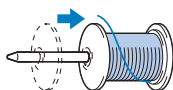
糸こまを糸たて棒に差し込み、糸が正面下から出るようにセットします。正しくセットしないと、糸が糸たて棒にからまるおそれがあります。



① 糸が正面下から出るようにセットします。

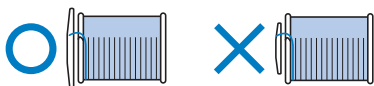
3 糸こま押えを糸たて棒に差し込みます。

糸こま押えの丸みをおびている面を外側にして、奥までしっかりと差し込みます。

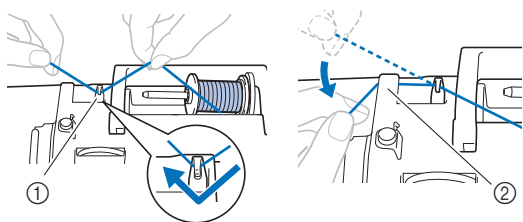


⚠ 注意

- 糸こまや糸こま押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、故障の原因となります。
- 糸こま押え（大）（中）は糸こまの大きさに合わせて使用してください。糸こまより小さい糸こま押えを使用すると、糸こまの切り欠きなどに糸が引っかかり、故障の原因となります。

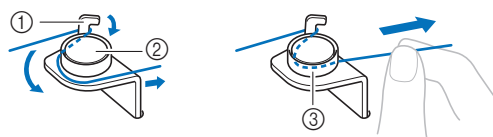


4 糸を糸案内のツメ部分にかけてから、糸案内カバーの奥から手前へかけます。



① 糸案内
② 糸案内カバー

5 下糸巻き案内のツメに糸をかけて、皿の下に通します。

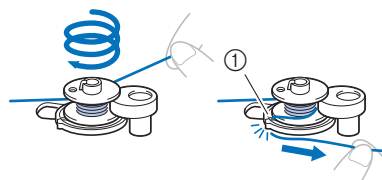


① 下糸巻き案内のツメ
② 皿
③ しっかり奥まで入れるように引っ張ります。

💡 お願い

- 糸が皿の下を確実に通っていることを確認してください。

6 糸を時計回りに5~6回巻き付けて、ポビン受け座のガイドミゾにひっかけ、糸の端を切ります。



① ガイドミゾ（カッター付）

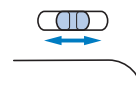
💡 お願い

- 糸は、必ず時計回りに巻いてください。逆方向に巻くと、下糸巻き軸に糸が巻きつくことがあります。

⚠ 注意

- 必ずガイドミゾのカッターで糸を切ってください。正しく糸を切らずに下糸を巻くと、糸量が少なくなったときにポビンに糸がからまり、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

7 スピードコントロールレバーで下糸を巻く速度を調節します。右に動かすと速く、左に動かすと遅くなります。



📄 お知らせ

- ナイロン透明糸などの伸縮性のある糸は、伸びるおそれがあるため、遅い速度で巻くことをおすすめします。

8 電源を入れます。

9 スタート/ストップスイッチを押して、下糸巻きをスタートします。
フットコントローラーを接続している場合は、フットコントローラーを踏み込みます。



🔔 お願い

- ナイロン透明糸をボビンに巻くときは、1/2 ~ 2/3 程度巻いたところで止めてください。ナイロン透明糸をボビンいっぱいまで巻くと、巻きくずれや縫製不良の原因となります。また、ボビンに圧力がかかり、ボビンが下糸巻き軸から抜けなくなったりボビンが破損したりする原因となります。

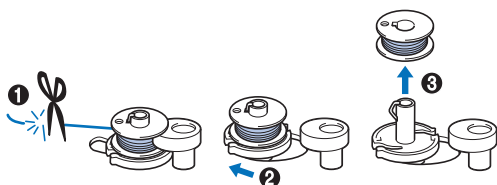


10 ボビンの回転がゆっくりになったら、スタート/ストップスイッチを1回押して、下糸巻きを停止します。
フットコントローラーを接続している場合は、フットコントローラーから足を離します。

⚠ 注意

- ボビンの回転がゆっくりになったら、必ず下糸巻きを停止してください。無理に続けると故障の原因となります。

11 糸を切り、下糸巻き軸をカチッと音がするまで左へ戻し、ボビンを取り外します。



12 スピードコントロールレバーを元の位置へ戻します。

13 糸こまを糸たて棒から外します。

下糸をセットする

下糸を巻いたボビンをかまにセットします。

ボビンをかまに入れ、針板カバーのミゾにそって糸を通してセットするだけで、すぐにぬい始めることができます（下糸を引き出す必要はありません）。

📖 お知らせ

- 糸を引いてギャザーを寄せたいとき、フリーモーションキルトをするときなどぬい始めの糸の始末をしたいときは、あらかじめ下糸を引き出しておきます。詳細は、「下糸を引き出す」(P.17)を参照してください。

⚠ 注意

- 必ず正しく巻かれた下糸を使用してください。巻き方が悪い下糸を使用すると、針折れや糸調子不良の原因となります。



- 下糸をセットするときや交換するときは、必ず操作パネルの (針・押え交換キー) を押してください。 が押されていない状態でスタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

1 電源を入れます。

2 (針上下スイッチ) を1回または2回押して、針を上げます。

3 押えレバーを下げます。

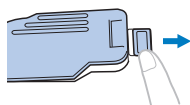
4 を押します。

- 押えが上がった状態で を押すと、エラーメッセージが表示されます。押えを下げてください。
→ 画面が以下のように変わり、 以外の操作キーと操作スイッチがすべてロックされます。

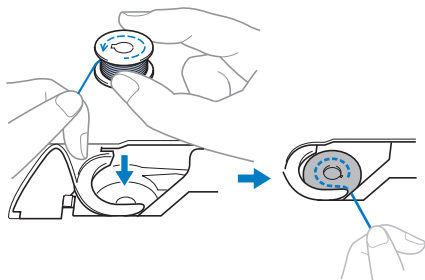


5 押えレバーを上げます。

6 針板ふたの横のつまみを右側へスライドさせ、針板ふたを取り外します。



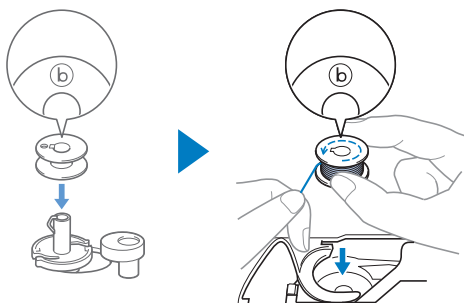
7 糸が左巻きになるようにしてボピンをかまにセットします。



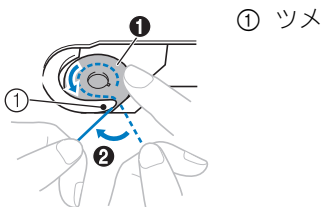
お知らせ

- 下糸巻き軸セット時 (P.11 手順 ①) と同じ向きでボピンをセットすると、左巻きになります。

本機付属ボピンの片面には「b」マークが刻印されていますので、参考にご使用ください。



8 右手でボピンを軽く押さえながら ①、左手で巻き終わりの糸を針板カバーのツメにかけます ②。

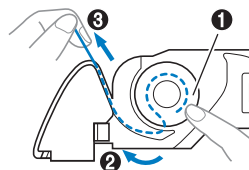


注意



- ボピンは必ず指で押さえ、正しい方向から糸が出るようにセットしてください。万一、ボピンを逆の方向にセットすると、針折れや糸調子不良の原因となります。

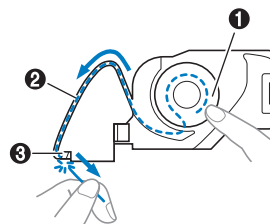
9 右手でボピンを軽く押さえたまま ①、ツメにかけた糸を針板カバーのミゾにそって通し ②、左手で糸を軽く引っ張ります ③。



お知らせ

- この図の ② のように、糸を針板カバーのツメにかけてから糸を通し、③ の位置で糸を軽く引っ張ることで、内かまの板ばねの間に糸が入り、ぬうときに下糸に適切な張力を加えることができます。

10 右手でボピンを軽く押さえたまま ①、左手で残りのミゾに糸を通します ②。最後に手前に引いてカッターで糸を切ります ③。

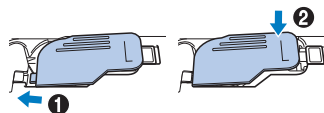


お知らせ

- 必ずこの手順に従って正しく下糸をセットしてください。針板カバーのミゾに糸をはめこむだけでは、下糸が正しくセットできず、縫製不良・糸調子不良の原因となります。


11 針板ふたを元に戻します。

針板ふたのタブを針板カバーに差し込んでから、針板ふたの右側を上から軽く押し付けて取り付けます。



お知らせ

- 下糸を引き出さずにぬい始めることができます。下糸を引き出してからぬう場合は、「下糸を引き出す」(P.17) を参照してください。

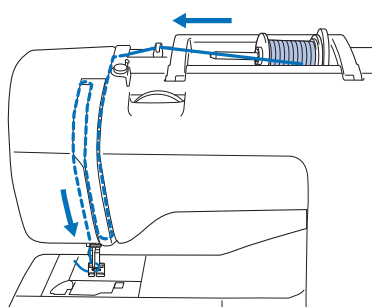
12  を押して、すべてのキーとスイッチのロックを解除します。

上糸通し

⚠ 注意

- 上糸は、手順に従って正しく通してください。上糸を正しく通していない場合、糸がからんで針が折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 20番以下の太い糸は使用しないでください。
- 針と糸は、「布地と糸の種類による針の使い分け」(P.18)を参照して、適切な組み合わせで使用してください。

上糸を通す

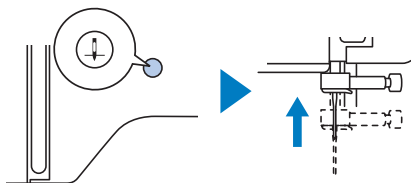


→ 上糸を通すときは、以下手順に従って正しく行ってください。

1 電源を入れます。

2 ①(針上下スイッチ)を1回または2回押して、針を上げます。

→ 針が一番上に上がっていないと、糸通し装置がうまく動作しません。必ず、①(針上下スイッチ)を押して、針が一番上まで上げてください。



3 押えレバーを下げます。

4 ②を押します。

- 押えが上がった状態で②を押すと、エラーメッセージが表示されます。押えを下げてください。
- 画面が以下のように変わり、②以外の操作キーと操作スイッチがすべてロックされます。

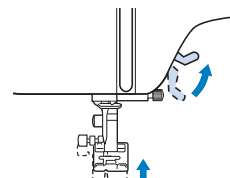


⚠ 注意



- 糸を針に通すときは、必ず操作パネルの②(針・押え交換キー)を押してください。②が押されていない状態でスタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

5 押えレバーで押えを上げます。

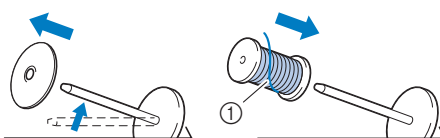


🌟 お願い

- 押えが上がっていない状態で上糸を通すことはできません。

6 糸こま押えを取り外し、糸こまを糸たて棒に差し込みます。

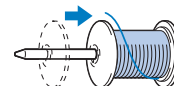
糸こまを糸たて棒に差し込み、糸が正面下から出るようにセットします。正しくセットしないと、糸が糸たて棒にからまるおそれがあります。



① 糸が正面下から出るようにセットします。

7 糸こま押えを糸たて棒に差し込みます。

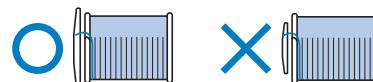
糸こま押えの丸みをおびている面を外側にして、奥までしっかりと差し込みます。



⚠ 注意



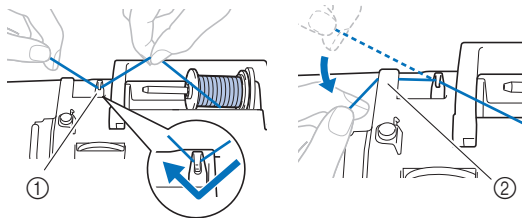
- 糸こま押えは糸こまの大きさに合わせて使用してください。適切な糸こま押えの選び方については、P.12を参照してください。



- 糸こまや糸こま押えが正しく取り付けられていないと、糸が糸たて棒にからまったり、針が折れたりするおそれがあります。

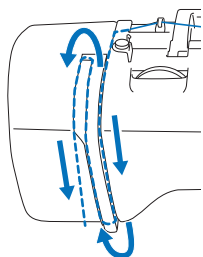
8 糸を糸案内のツメ部分にかけてから、糸案内カバーの奥から手前へかけます。

引き出した糸がたるまないように右手で糸を持ち、左手で糸案内カバーにかけます。

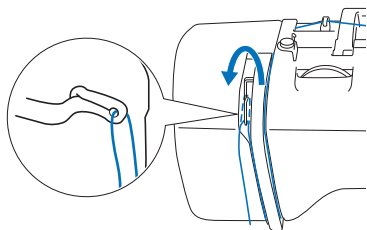


① 糸案内
② 糸案内カバー

9 矢印のように、ミゾにそって糸を通します。

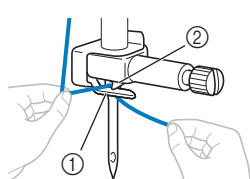


10 下図のように、糸が確実にてんびんに通っていることを確認します。



11 針棒糸かけに糸をかけます。

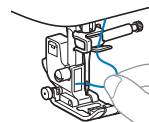
図のように、左手で糸を押さえ、右手で糸端を持ってかけると、針棒糸かけの後ろに通しやすくなります。針棒糸かけのツメの左側に糸が通っていることを確認してください。



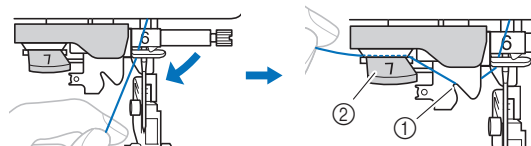
① 針棒糸かけ
② ツメ

12 針や糸が糸通し装置に対応していることを確認します。対応している場合は、次の手順に進みます。

- 糸通し装置は、11～16番のミシン針のみに使用できます。
- ナイロン透明糸や特殊な糸を使用するときは、糸通し装置は使用できません。
- 糸通し装置が使用できない場合は、手で糸を持ち、針穴の手前から後ろへ糸を通します。このとき手順**4**で示したように、すべてのスイッチやキーをロックしてください。

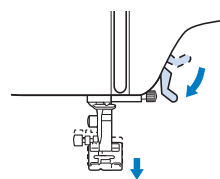


13 針棒糸かけに通した糸の端を左へ引いて、糸ガイドのミゾにかけたら、糸を前からしっかりと引き、番号7の糸案内皿のすき間にはさみ込みます。

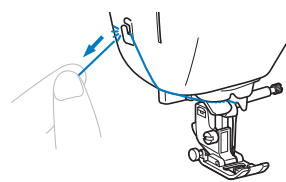


① 糸ガイドのミゾ
② 糸案内皿

14 押えレバーで押えを下げます。



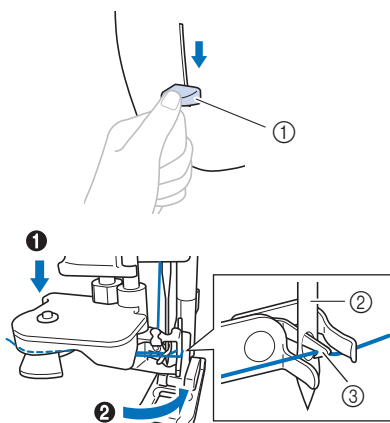
15 ミシン本体左側面の糸切りで糸を切ります。



お願い

- メタリック糸など、糸こまからほどけやすい糸を使用する場合、糸切りで糸を切ると糸通しができないことがあります。このようなときは、糸案内皿(7のしるし)に糸をかけた後、糸切りを使用せずに、糸を8cm以上引き出してください。

- 16 ミシン本体左側面の糸通しレバーをフックが回転するまで下げます。
糸案内皿が下がってから ①、フックが回転します ②。

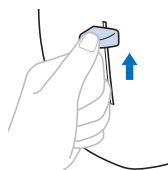


- ① 糸通しレバー
② 針
③ フック

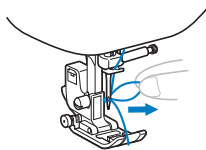
👁️ お願い

- 針が一番上の位置にないと、糸通し装置が正常に作動しません。一番上の位置にないときは、針上下スイッチを1回または2回押して針を上げてください。

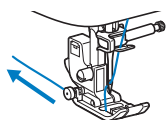
- 17 糸通しレバーをゆっくりと上へ戻します。



- 18 針穴を通った糸端をゆっくり引っ張ります。
針穴を通った糸が輪になった場合は、輪をゆっくり引っ張り、針穴から糸端を引き出します。



- 19 押えレバーを上げ、上糸を押えの穴から押えの下に通して、後ろ側へ10cmほど引き出します。



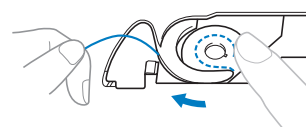
- 20 [] を押して、すべてのキーとスイッチのロックを解除します。

下糸を引き出す

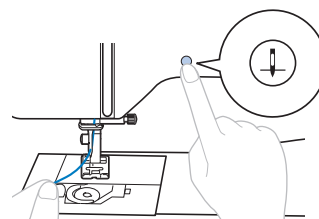
糸を引いてギャザーを寄せたいとき、フリーモーションキルトなどでぬい始めの糸の始末をしたいときは、あらかじめ下糸を引き出しておきます。

- 1 「上糸を通す」(P.15) を参照して、針に糸を通します。
- 2 「下糸をセットする」(P.13) の①～⑦を参照して、ポピンをかまに入れます。
- 3 引き出した糸をミゾにそって途中まで通します。

下糸が引き出しにくくなるので、糸切りで糸を切らないでください。

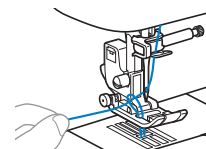


- 4 [] を押して、すべてのキーとスイッチのロックを解除します。
- 5 左手で上糸の端を軽く持ち、[] (針上下スイッチ) を2回押して、針を上げます。

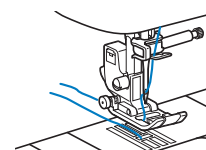


→ 下糸が針板から輪になって引き出されます。

- 6 上糸をゆっくりと上へ引き、下糸の糸端を引き出します。



- 7 上糸を押えの穴から押えの下に通して、下糸とそろえて押えの下から後ろ側へ10cmほど引き出します。



- 8 針板ふたを元に戻します。

布地と糸の種類による針の使い分け

- このミシンで使用できる針：家庭用ミシン針（HA×1 シリーズの太さ 9～16 番） 例）HA×1、HA×1SP など
- このミシンで使用できる糸：30～90 番
* 20 番以下の太い糸は使用しないでください。故障の原因となります。
- 布地により、ミシン針や糸を使い分けます。次の表を参考にして、布地に適した糸と針を選択してください。
 - 表は目安です。必ず試しぬいをしてください。使用する布地を、実際にぬう枚数分重ねてぬってください。
 - ミシン針は消耗品です。美しい仕上がりと安全のために、折れる前の早めの針交換をおすすめします。針交換の目安は「正しい針の見分け方」(P.19) を参照してください。

* 基本として、薄い布地には細い針と細い糸、厚い布地には太い針と太い糸を使用します。
* 薄い布地をぬうときはぬい目を細かく、厚い布地をぬうときは粗くします。(P.30)

布地の特徴・種類		ミシン糸		針の太さ	ぬい目の長さ mm
		種類	太さ		
薄地	ローン、ジョーゼット、ポーラ、オーガンジー、シフォン、ポイル、ガーゼ、チュール、綿サテン、裏地 など	ポリエステル糸	60～90	9～11	細かいぬい目 (1.8～2.5)
		綿糸、絹糸	50～80		
普通地	ブロード、タフタ、ギャバジン、フラノ、サッカー、ダブルガーゼ、リネン（麻布）、ちりめん、タオル地、ワッフル、シーチング、ポプリン、シャンプレー、ダンガリー、サテン、サージ など	ポリエステル糸	60～90	11～14	普通のぬい目 (2.0～3.0)
		綿糸、絹糸	50～60		
厚地	デニム（12 オンス以上）、帆布 など	ポリエステル糸、綿糸	30	16	粗いぬい目 (2.5～4.0)
	デニム（12 オンス以上）、帆布、ツイード、コーデュロイ、ペロア、キルティン、メルトン、モッサ、ビニールコーティング地 など	ポリエステル糸	60	14～16	
		綿糸、絹糸	30～50		
のびる布地（ニット素材など）	ジャージー、トリコット、Tシャツ地、フリース、スムース など	ニット用糸	50	ニット用針（金） 11～14	布地の厚みに応じて設定 * 伸びる布地に適した模様の選択をおすすめします。（「伸びる布地をぬう」(P.33)）
ステッチをかける場合 * 20 番以下の太い糸（ステッチ糸）を使用しないでください。糸通し装置の故障や、針折れの原因となります。		ポリエステル糸	30 50～60	14～16 11～14	布地の厚みに応じて設定

■ ナイロン透明糸

布地や糸にかかわらず 14～16 番の針を使用します。

■ 文字模様・飾り模様をぬうとき（針・糸）

針は、薄地・普通地・伸びる布地のときは、ニット用針（金色）11 番（別売）、厚地のときは家庭用ミシン針 14 番を使用します。糸は 50～60 番を使用します。

⚠ 注意



- 布地と糸と針の組み合わせは、上記に従ってください。組み合わせが適切でない場合、ぬい目がふぞろいになり、ぬいじわや目とびの原因になります。特に、厚い布地（デニムなど）を細い針（9～11 番）でぬうと、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

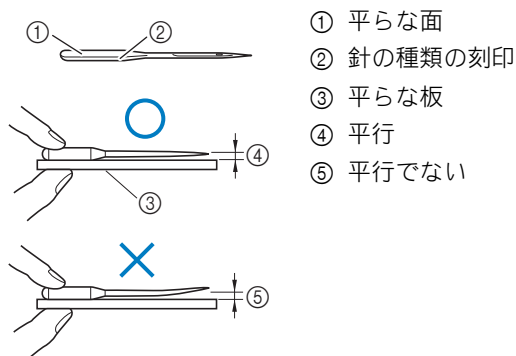
針の交換

⚠ 注意

- 針は必ず家庭用ミシン針 (HA × 1) を使用してください。そのほかの針を使用すると、針が曲がったり、ミシンが故障する原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。けがをするおそれがあります。

正しい針の見分け方

針を使用する前に、針の平らな面を平らな板などに合わせて確認し、すき間が平行にならない針は使用しないでください。



👉 お願い


- 針は消耗品です。次の事例にあてはまるときは、針を交換して下さい。
 - 針が布地に刺さる際に通常と異なる音 (パツパツやバスッバスッなど) が出るとき (針先が折れていたりつぶれていたりする可能性があります。)
 - 目とびが起きるとき (針が曲がっている可能性があります。)
 - 目安として、洋服などを 1 作品ぬい終えたとき



針の交換

「正しい針の見分け方」で確認した新しい針と、付属のドライバーを用意します。

- ④ (針上下スイッチ) を 1 回または 2 回押して、針を上げます。
- ミシン内部に針が落ちるのを防ぐために、押えの下に布または紙を置いて、針板の穴をふさぎます。

- ③ 押えレバーを下げます。



- ④  を押します。

- 押えが上がった状態で  を押すと、エラーメッセージが表示されます。押えを下げてください。
- 画面が以下のように変わり、 以外の操作キーと操作スイッチがすべてロックされます。



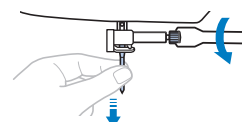
⚠ 注意



- 針を交換するときは、必ず操作パネルの  (針・押え交換キー) を押してください。 が押されていない状態でスタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

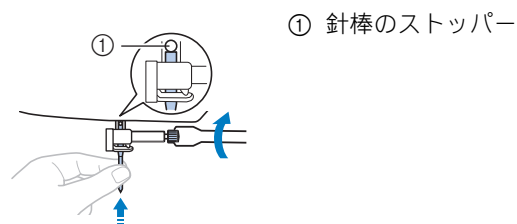
- ⑤ 「押えを交換する」(P.20) の ④ ~ ⑤ を参照して、押えを取り外します。

- ⑥ 左手で針を持ち、ドライバーで針のとめネジを手前 (時計と反対回り) に回し、針を取り外します。



- とめネジをしめたりゆるめたりするときに、無理に力を加えないでください。ミシンの部品が破損するおそれがあります。

- ⑦ 新しい針を平らな面が後ろ側になるように、針棒のストッパーに当たるまで差し込みます。そのあと、ドライバーで針のとめネジを奥側 (時計回り) に回し、針のとめネジをしめます。




① 針棒のストッパー

⚠ 注意



- 針は必ずストッパーに当たるまで差し込み、ドライバーでとめネジを確実に締めてください。針が正しく取り付けられていないと、針折れや故障の原因となります。

8 「押えを交換する」(P.20)の⑥～⑧を参照して、押えを元に戻します。

9 を押して、すべてのキーとスイッチのロックを解除します。

押えの交換

⚠ 注意



- 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。各模様で使用する押えについては、「ぬい方早見表」(P.35)を参照してください。
- 押えは必ず純正品を使用してください。


🔍 お願い

- 模様を選択すると、使用する押えが液晶画面に表示されます。ぬい始める前に押えを確認してください。他の押えが取り付けられている場合は、正しい押えを取り付けてください。詳細は、「液晶画面の見方」(P.9)を参照してください。






* 片押え<I>やキルト押えなど、液晶画面に表示されない押えもあります。

押えを交換する

1  (針上下スイッチ) を1回または2回押して、針を上げます。

2 押えレバーを下げます。



3 を押します。

- 押えが上がった状態でを押すと、エラーメッセージが表示されます。押えを下げてください。
- 画面が以下のように変わり、以外の操作キーと操作スイッチがすべてロックされます。



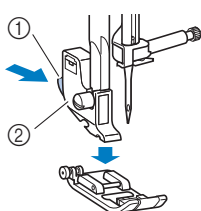
⚠ 注意



- 押えを交換するときは、必ず操作パネルの  (針・押え交換キー) を押してください。
-  が押されていない状態でスタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、マシンが作動してけがをするおそれがあります。

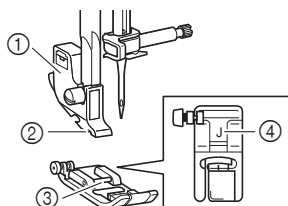
4 押えレバーを上げます。

5 押えホルダーの後ろ側の黒いボタンを押し、押えを取り外します。



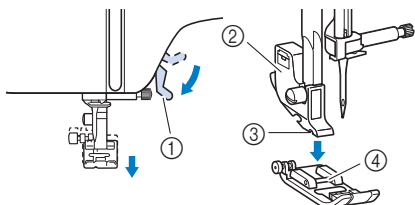
- ① 黒いボタン
- ② 押えホルダー

6 取り付ける押えのピンと押えホルダーのミゾが合う位置に押えを置きます。



- ① 押えホルダー
- ② ミゾ
- ③ ピン
- ④ 押え記号

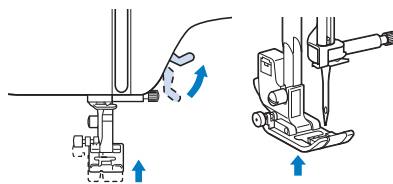
7 押えレバーをゆっくり下げて、押えホルダーのミゾを押えのピンにはめます。




- ① 押えレバー
- ② 押えホルダー
- ③ ミゾ
- ④ ピン

→ 押えが押えホルダーに取り付けられます。

8 押えレバーを上げて、押えが確実に取り付けられていることを確認します。





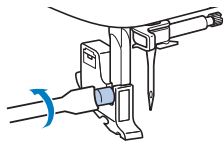
9  を押して、すべてのキーとスイッチのロックを解除します。


押えホルダーを取り外す／取り付ける

お手入れをするとき、または、ウォーキングフットなどの押えホルダーを使用しない押えを取り付けるときは、押えホルダーを取り外します。



■ 押えホルダーを取り外すとき

- 1 押えレバーを下げます。
- 2 を押します。
 - 押えが上がった状態でを押すと、エラーメッセージが表示されます。押えを下げてください。
- 3 押えを取り外します。
 - 詳細は、「押えを交換する」(P.20)を参照してください。
- 4 ドライバーで押えホルダーのネジをゆるめます。
 - ネジは奥側（時計と反対回り）に回します。
 - 押えホルダーのネジは、ネジ回しでも回すことができます。

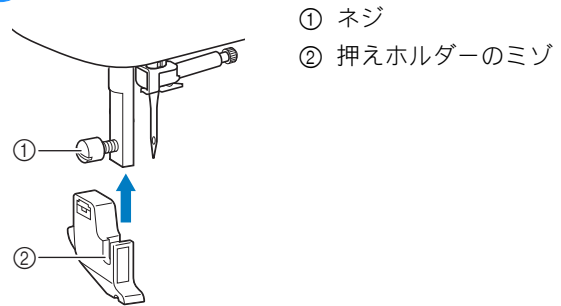


- 5 を押して、すべてのキーとスイッチのロックを解除します。

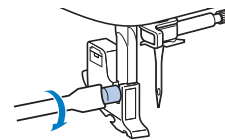
■ 押えホルダーを取り付けるとき

- 1 押えレバーを下げます。
- 2 を押します。
 - 押えが上がった状態でを押すと、エラーメッセージが表示されます。押えを下げてください。

- 3 押えレバーを上げます。
- 4 押えホルダーのミゾを、ネジに合わせます。




- 5 右手で押えホルダーを支え、左手でドライバーを使用してネジをしめます。
 - ネジは手前（時計回り）に回します。



⚠ 注意

- 押えホルダーのネジは、確実にしめてください。締め方がゆるいと、押えホルダーが落ちて針に当たり、針が曲がったり折れたりするおそれがあります。

- 6 を押して、すべてのキーとスイッチのロックを解除します。

第2章 基本のぬい方

2

基本のぬい方

ぬってみましょう



注意

- ミシン操作中は、針の動きに十分注意してください。また、針やプーリーなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。けがの原因となります。
- 縫製中は、布地を無理に引っ張ったり押ししたりしないでください。けがや針折れの原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。折れやすく、けがの原因となります。
- 縫製中は、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

ミシンかけの手順

ミシンをかけるときの基本の手順は次のとおりです。

1 電源を入れる

ミシンの電源を入れます。(P.8)

2 模様を選ぶ

ぬう箇所に合わせて模様を選びます。
(P.26 手順④)

3 押えを取り付ける

模様にあった押えを取り付けます。(P.20)

4 スタート

布をセットし、ミシンをスタートさせます。
ぬい終わったら糸を切ります。
詳細は、「基本的なぬい方」(P.26)を参照してください。

模様の選択方法

模様を選択するには、以下の方法があります。
ダイレクト選択：各模様に割り当てられたキーを押す

番号選択：模様のカテゴリーを選択した後、模様の番号を入力する

■ダイレクト選択

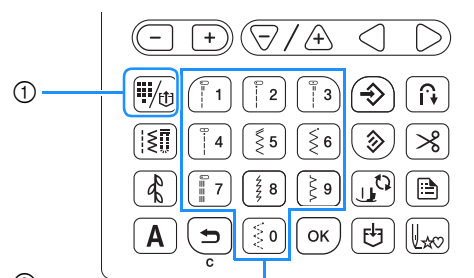
ダイレクト選択には以下の2つのモードがあります。を押すごとに、モードが切り替わります。

□ 実用ダイレクト選択模様

よく使う実用模様が、数字キーにひとつずつ割り当てられています。
該当するキーを押すだけで、模様が選択できます。

□ ミシンに記憶させた模様

よく使う模様や組み合わせた模様を、ミシンに記憶させておき、で呼び出すことができます。詳細は、「模様の記憶」(P.56)を参照してください。



- ① ダイレクト選択／模様呼び出しキー
- ② 数字キー

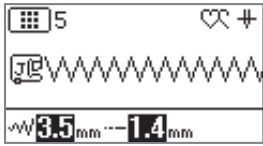
1 画面の左上にが表示されていることを確認します。



他のアイコンが表示されている場合は、を押します。

2 ぬいたい模様が割り当てられている数字キーを押します。

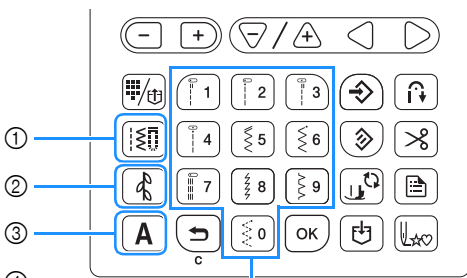
→ 選択した模様が液晶画面に表示されます。



- 数字キーに割り当てられた模様については、「実用ダイレクト選択模様」(P.39)を参照してください。

番号選択

模様のカテゴリーを選択してから、ぬう模様の番号を数字キーで入力します。



- ① 実用模様キー
- ② 飾り模様キー
- ③ 文字模様キー
- ④ 数字キー

1 模様カテゴリーを選択します。

- 実用模様を選択するときは、を押してください。
- を押すたびに、以下の順で飾り模様のカテゴリーが切り替わります。
 → → → ...
- を押すたびに、以下の順で文字模様のカテゴリーが切り替わります。
 → → → → ...

→ 選択中の模様カテゴリーは、画面の左上に表示されます。



2 数字キーを使って、ぬいたい模様の番号を入力します。

- 各模様の番号については、「ぬい方早見表」(P.35)を参照してください。
- 01～09番の模様については、番号を1桁で入力した後にを押すことでも入力できます。
- 日本語フォントカテゴリーの01～99番の模様については、番号を1桁または2桁で入力した後にを押すことでも入力できます。(例：001番の模様を入力するときは、を入力してからを押します。)

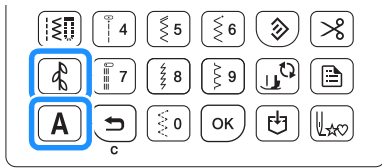
→ 選択した模様が液晶画面に表示されます。



- 番号を間違えて入力したときは、を押すと、入力した数字を消去できます。

模様を組み合わせる

以下のカテゴリの模様は組み合わせることができます。



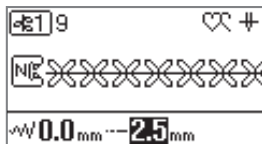
例：



1 を押します。

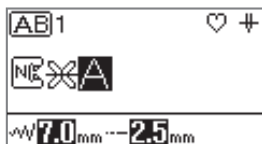
2 ひとつ目の模様の番号を数字キーで入力します。

→ 選択した模様が液晶画面に表示されます。



3 **A** を押します。

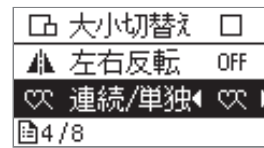
4 ふたつ目の模様の番号を数字キーで入力します。



- 選択した模様を消去する場合は、操作パネルの を押します。最後に選択した模様から順に消去されます。

5 組み合わせた模様を繰り返しぬう場合は、 を押して設定画面の4ページ目を開きます。

6 を (単独ぬい/連続ぬい) を (連続ぬい) に設定してください。



→ 組み合わせた模様が連続ぬい (繰り返しぬえるモード) になります。



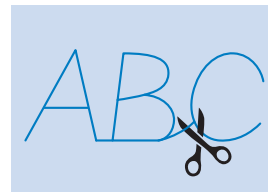
お願い

- 連続ぬいの設定にすると、ミシンを止めるまで繰り返し模様をぬいます。
- ミシンの電源を切ると、連続ぬい/単独ぬいの設定は、初期値に戻ります。
- 組み合わせた模様が液晶画面に収まらないときは、設定画面の ABC (確認) を使用してください。
 を押すと模様を確認することができます。



お知らせ

- ぬい終わったら、余分な糸 (渡り糸) を切り取ります。

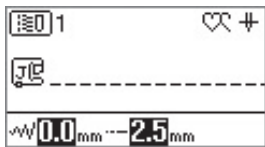


基本的なぬい方

🔍 お願い

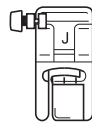
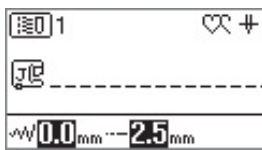
- 最初に、実際に使用する布地のほぎれと糸を使用して、試しぬいをしてください。

- 1 布地に適した針と糸を準備します。(P.18)
必要に応じて、針を交換します。(P.19)
- 2 下糸をボビンに巻いて、ミシンにセットします。(P.11)
- 3 上糸を通します。(P.15)
- 4 模様を選択します。
詳細は、「模様の選択方法」(P.23)を参照してください。



- 選択した模様が画面に表示されます。
- 模様の詳細は、「ぬい方早見表」(P.35)を参照してください。
 - 必要に応じて、振り幅やぬい目の長さを設定してください。(P.30)

- 5 液晶画面に表示された押えを取り付けます。ここでは、ジグザグ押え<J>を取り付けます(購入時はミシンに取り付けられています)。

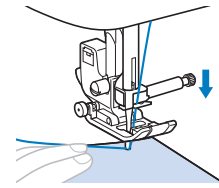


- 押えの交換方法については、「押えの交換」(P.20)を参照してください。

⚠️ 注意

- 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあり、けがの原因となります。模様に適した押えについては、「ぬい方早見表」(P.35)を参照してください。

- 6 布地を押えの下に置き、左手で布地と糸端を押さえ、プーリーを時計と反対回りに回すか、⊕ (針上下スイッチ) を押してぬい始めの位置に針を刺します。



- 7 押えレバーを下げます。

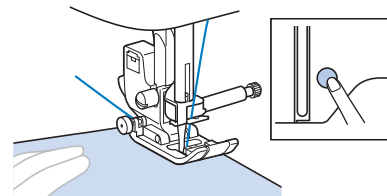
- 8 スピードコントロールレバーでぬう速さを調節します。

ぬっている途中でも、ぬう速さを調節することができます。



- 9 スタート/ストップスイッチを押して、ぬい始めます。(フットコントローラーで操作している場合は、フットコントローラーをゆっくり踏み込みます。)

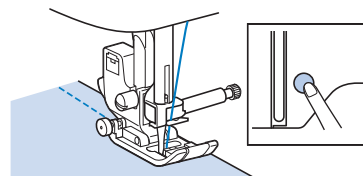
布地に軽く手を添えます。



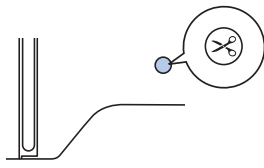
📖 お知らせ

- フットコントローラーを接続しているときは、スタート/ストップスイッチは使用できません。

- 10 ぬい終わったら、もう一度スタート/ストップスイッチを押します。(フットコントローラーで操作している場合は、フットコントローラーから足を離します。)



- 11 ⊗ (糸切りスイッチ) を押して上糸と下糸を切ります。



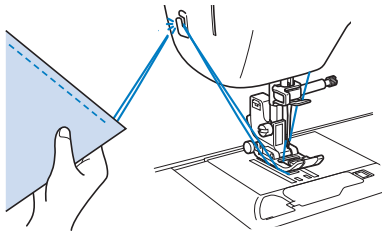
→ 針が自動的に上がります。

⚠ 注意

- 糸を切った後は、⊗ (糸切りスイッチ) を押さないでください。糸がからまったり、針が折れたり、ミシンが故障する原因となります。
- 押えの下に布地がないときは、⊗ (糸切りスイッチ) を押さないでください。糸がからまったり、ミシンが故障する原因となります。

🔍 お願い

- ナイロン糸などの特殊な糸を切る場合は、本体左側面の糸切りを使用してください。



- 12 針が完全に止まったら、押えレバーを上げて布地を取り出します。

- 13 仕上がりを確認します。必要に応じて、糸調子を調節してください。(P.30)

■ フットコントローラー (別売) を使用する

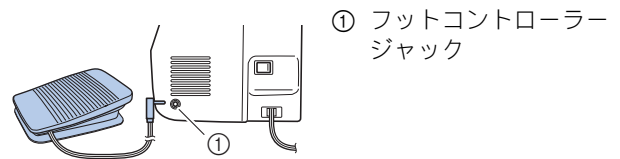
フットコントローラーを使用して、ミシンを操作することもできます。

📖 お知らせ

- フットコントローラーを接続しているときは、スタート/ストップスイッチを使用してミシンをスタートさせることはできません。下糸巻きもフットコントローラーで操作します。

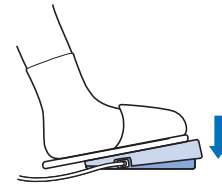
- 1 電源を切ります。

- 2 ミシンのフットコントローラージャックに、フットコントローラーのプラグを差し込みます。



- 3 電源を入れます。

- 4 フットコントローラーをゆっくり踏み込み、ぬい始めます。



📖 お知らせ

- スピードコントロールレバーで、フットコントローラーの最高速度を調節することができます。

- 5 ぬい終わりの位置まできたら、フットコントローラーから足を離します。

返しぬい／止めぬいをする

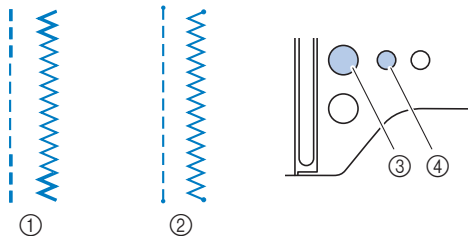
ぬい始めとぬい終わりは、糸の端がほつれないように、返しぬいまたは止めぬいをします。

止めぬいは同じ場所で3～5針ぬいます。返しぬいは反対方向にぬいます。

④ (返しぬいスイッチ) を押している間、選択した模様によって返しぬいまたは止めぬいをします。

お知らせ

- 返しぬい模様または止めぬい模様を選択したときに、④ (返しぬいスイッチ) を押すと、返しぬいをします。
それ以外の模様を選択したときに、④ (返しぬいスイッチ) を押すと、止めぬいをします。
詳細は、「ぬい方早見表」(P.35) を参照してください。
- ⑤ (止めぬいスイッチ) を長押しすると、いずれの模様を選択していても、同じ場所で3～5針ぬってから止まります。



- ① 返しぬい
- ② 止めぬい
- ③ ④ (返しぬいスイッチ)
- ④ ⑤ (止めぬいスイッチ)

お知らせ

- 文字模様／飾り模様をぬっているときに⑤ (止めぬいスイッチ) を押すと、縫製は模様の途中では停止せず、1模様ぬい終わってから停止します。
- 1模様をぬっている間、⑤ (止めぬいスイッチ) の横にある緑のLEDが点灯します。止めぬいが終わると、LEDは消えます。

自動で返しぬい／止めぬいをする

模様を選択したときに自動返しぬい／止めぬいを設定しておくことで、ぬい始めとぬい終わりに自動的に止めぬい(模様によっては返しぬい)をします。

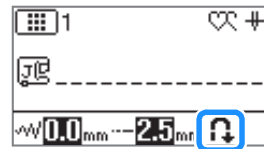
電源を切ると、自動返しぬい／止めぬいの設定は解除されます。

1 模様を選択します。

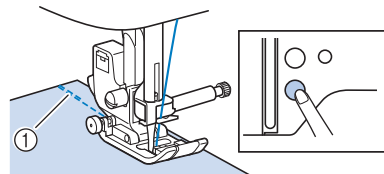
- 模様の選択については、「基本的なぬい方」(P.26) を参照してください。

2 ④ を押して自動返しぬい／止めぬいを設定します。

→ ④ が液晶画面に表示されます。



3 ぬい始めの位置に針を刺し、スタート／ストップスイッチを押してぬい始めます。

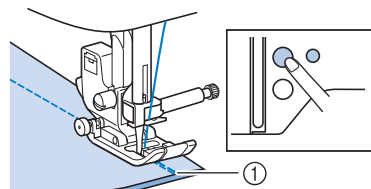


- ① 返しぬい(または止めぬい)
→ 自動的に返しぬい(または止めぬい)をしてぬい始めます。

お知らせ





- ぬっている途中でスタート／ストップスイッチを押すと、縫製を一時停止／再開できます。


4 ぬい終わりの位置まできたら、④ (返しぬいスイッチ) または⑤ (止めぬいスイッチ) を押します。




- ① 返しぬい(または止めぬい)
→ 自動的に返しぬい(または止めぬい)をしてぬい終わります。

それぞれのスイッチを押したときのミシンの動きは、選択している模様によって異なります。次の表を参照してください。

	返しぬいスイッチ Ⓜ	止めぬいスイッチ Ⓞ
自動返しぬい/止めぬい=OFFで、返しぬい模様を選択している場合 	返しぬいスイッチを押している間だけ返しぬいをします。	止めぬいスイッチを押している間3~5針の止めぬいをします。
自動返しぬい/止めぬい=OFFで、止めぬい模様を選択している場合 	返しぬいスイッチを押している間だけ返しぬいをします。*	止めぬいスイッチを押している間3~5針の止めぬいをします。
自動返しぬい/止めぬい=OFFで、返しぬい模様、止めぬい模様以外の実用模様を選択している場合	返しぬいスイッチを押している間3~5針の止めぬいをします。	止めぬいスイッチを押している間3~5針の止めぬいをします。
自動返しぬい/止めぬい=OFFで、文字模様/飾り模様を選択している場合	返しぬいスイッチを押している間3~5針の止めぬいをします。	止めぬいスイッチを押すと、1模様を完成させてから止めぬいをします。
自動返しぬい/止めぬい=ONで、返しぬい模様を選択している場合 	返しぬいスイッチを押すと、返しぬいをしてぬい終わります。(ぬい始めは自動で返しぬいをします。)	止めぬいスイッチを押すと、止めぬいをしてぬい終わります。(ぬい始めは自動で返しぬいをします。)
自動返しぬい/止めぬい=ONで、止めぬい模様を選択している場合 	返しぬいスイッチを押すと、返しぬいをしてぬい終わります。*(ぬい始めは自動で止めぬいをします。)	止めぬいスイッチを押すと、止めぬいをしてぬい終わります。(ぬい始めは自動で止めぬいをします。)
自動返しぬい/止めぬい=ONで、返しぬい模様、止めぬい模様以外の実用模様を選択している場合	返しぬいスイッチを押すと、止めぬいをしてぬい終わります。(ぬい始めは自動で止めぬいをします。)	止めぬいスイッチを押すと、止めぬいをしてぬい終わります。(ぬい始めは自動で止めぬいをします。)
自動返しぬい/止めぬい=ONで、文字模様/飾り模様を選択している場合	返しぬいスイッチを押すと、止めぬいをしてぬい終わります。(ぬい始めは自動で止めぬいをします。)	止めぬいスイッチを押すと、1模様を完成させてから止めぬいをしてぬい終わります。(ぬい始めは自動で止めぬいをします。)

*  (止めぬい優先設定) を [ON] にしている場合は、返しぬいの代わりに止めぬいをします。

お知らせ

- ボタン穴かがりやかんどめなどの一部の模様では、ぬい始めに止めぬいをする必要があります。これらの模様では、自動返しぬい/止めぬいが自動的に設定されます(該当する模様を選択すると液晶画面に  が表示されます)。

自動で糸を切る


ぬい終わりに自動で糸を切るように設定します。自動糸切りを設定すると、自動返しぬい/止めぬいも一緒に設定されます。

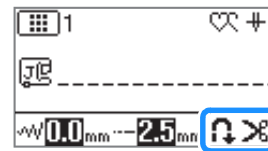
電源を切ると、自動糸切りの設定は解除されません。



1 ミシンの電源を入れます。


2 模様を選択します。

- 模様の選択については、「基本的なぬい方」(P.26)を参照してください。

3  を押します。





→ 液晶画面に  と  が表示され、自動糸切りと自動返しぬい/止めぬいが設定されます。

- 自動糸切りを解除するときは、 を押してください。

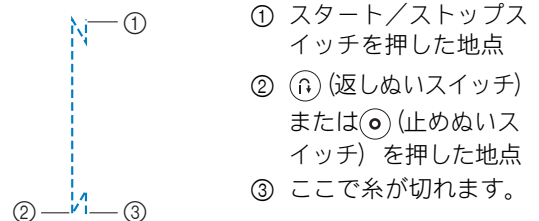
4 ぬい始めの位置に針を刺し、スタート/ストップスイッチを押します。

→ 自動的に返しぬい(または止めぬい)をしてから、ぬい始めます。

5 ぬい終わりの位置までできたら、 (返しぬいスイッチ) または  (止めぬいスイッチ) を押します。

ボタン穴かがりやかんどめなど、自動返しぬい/止めぬいが自動的に設定される模様を選択したときは、この操作は必要ありません。




→ 返しぬい(または止めぬい)をしてから、自動で糸を切ります。



振り幅／ぬい目の長さを調節する

模様の振り幅（ジグザグの振り幅）やぬい目の長さは、あらかじめ模様ごとの標準値に設定されています。この設定は、必要に応じて変更することができます。

お知らせ

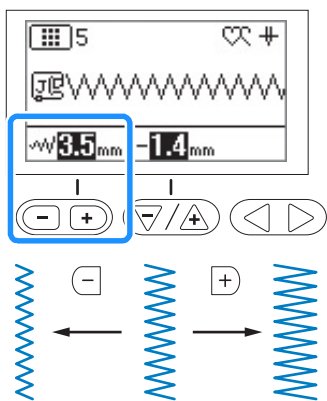
- 標準値の設定に戻すときは、を押します。そのあとでを押すと、標準値がミシンに記憶されます。
- 直線模様または3重ぬいを選択した場合は、模様の幅を変更すると針の位置が移動します。振り幅を広くすると針は右に移動し、せまくすると左に移動します。(P.30)
- と表示されているときは、設定を変更することができません。

注意

- 振り幅を調節したときは、プーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。
- ぬい目がつまる場合は、ぬい目の長さをあらくしてください。ぬい目が詰まった状態でぬい続けると、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

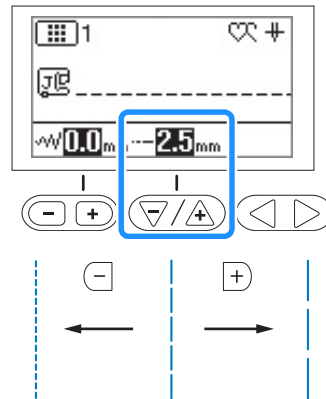
振り幅を調節する

模様の振り幅（ジグザグの振り幅）を広くしたりせまくしたりすることができます。



ぬい目の長さを調節する

ぬい目の長さを調節して、ぬい目をあらく（長く）したり細かく（短く）したりすることができます。

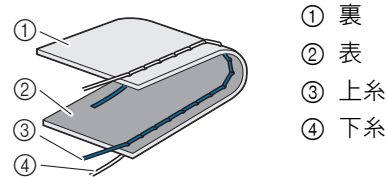


糸調子を調節する

布地や糸の種類に合わせて、糸調子を調節します。

正しい糸調子

上糸と下糸が布地のほぼ中央でまじわります。布地の表に出るのは上糸だけで、布地の裏に出るのは下糸だけになります。

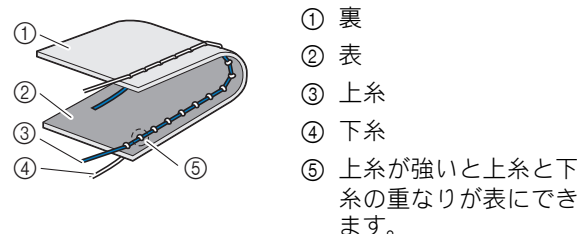


上糸が強いとき

布地の表に下糸が見える場合は、上糸が強すぎます。糸調子を弱くしてください。

お願い

- 下糸が正しくセットされていないと、上糸が強くなることがあります。上糸が強いときは、下糸のセットをやり直してください。「下糸をセットする」(P.13)を参照してください。



糸調子ダイヤルを左に回し、上糸調子を弱くします。

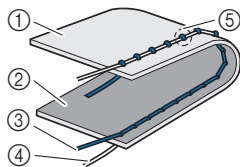


■ 上糸が弱いとき

布地の裏に上糸が見える場合は、上糸が弱すぎます。糸調子を強くしてください。

🔍 お願い

- 上糸が正しくセットされていないと、上糸が弱くなる場合があります。上糸が弱いときは、上糸通しをやり直してください。「上糸通し」(P.15)を参照してください。



- ① 裏
- ② 表
- ③ 上糸
- ④ 下糸
- ⑤ 上糸が弱いと上糸と下糸の重なりが裏にできます。

糸調子ダイヤルを右に回し、上糸調子を強くします。



🔍 お願い

- 下糸セットと上糸通しが正しく行われていない場合、糸調子が合わないことがあります。糸調子を調節しても糸調子が合わないときは、下糸セットと上糸通しをやり直してください。

上手にぬうためのヒント

上手にぬうコツ

■ 試しぬいをする

作品をぬい始める前に、実際に使用する布地のはぎれと糸で試しぬいをすることをおすすめします。布地の枚数や模様に合わせて、糸調子や模様の幅・長さを確認してください。

🔍 お願い

- 布地の厚みや接着芯などが仕上がりに影響することもありますので、実際にぬう前に試しぬいをしてください。
- 飾りサテンステッチまたはサテンステッチをぬうときは、ぬい目がつれたり、つまったりすることがあるので、必ず接着芯を使用してください。

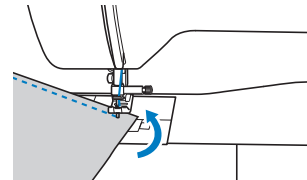
■ ぬう方向を変更する

1 角までぬったら、ミシンを停止させます。

このとき、針が下がった(布地に刺さった)状態にしておきます。もし針が上がっている場合は、Ⓣ(針上下スイッチ)を押して針を下げます。

2 押えレバーを上げ、布地を持って回転させます。

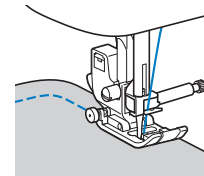
針位置を基点に回転させます。



3 押えレバーを下げ、続きをぬいます。

■ カーブをぬう

カーブの途中でミシンを停止させながら、少しずつ向きを変更してぬいます。「布端から一定の距離をぬう」(P.32)を参考にして、布端と平行になるようにぬいます。

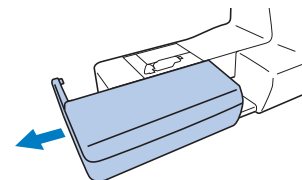


ジグザグ模様でカーブをぬうときは、ぬい目の長さを短めにする(または細かいジグザグ模様を選択する)ときれいに仕上がります。

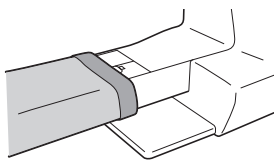
■ 筒ものをぬう

そで口やズボンのすそなどの小さな筒ものをぬうときは、補助テーブルを取り外してフリーアームにします。

1 補助テーブルを左へ引いて取り外します。



- 2 ぬいたい部分をアームにセットし、筒を回転させながら布地をぬっていきます。



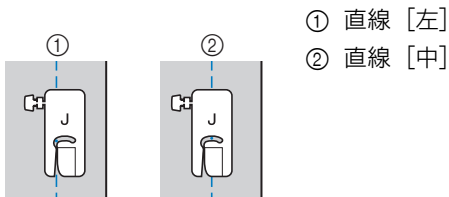
- 3 ぬい終わったら、補助テーブルを元に戻します。

布端から一定の距離をぬう

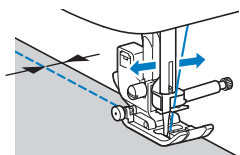
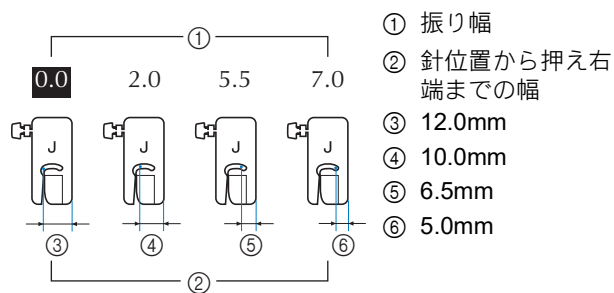
布端と平行に一定の幅でぬうときは、ぬいしろの端が右側になるようにぬい始め、押えの右端が針板の目盛りを基準にしてぬいます。

針位置を変更する

直線 [左] と直線 [中] は、基線となる針位置が異なります。



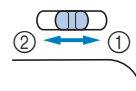
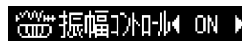
直線 [左] は、ジグザグの振り幅が標準の設定 (0.0mm) のときに、針位置から押えの右端まで 12mm あります。振り幅を変更 (0.0 ~ 7.0mm) すると、針位置を変更できます。押えの右端に布端を合わせてぬうと、一定の幅でぬうことができます。



- 詳細は、「振り幅を調節する」(P.30) を参照してください。

お知らせ

- 設定画面で (振り幅コントロール) が [ON] に設定されているときは、直線ぬいの針位置をスピードコントロールレバーで切り替えることができます。設定時フットコントローラー (別売) を使用してぬいます。

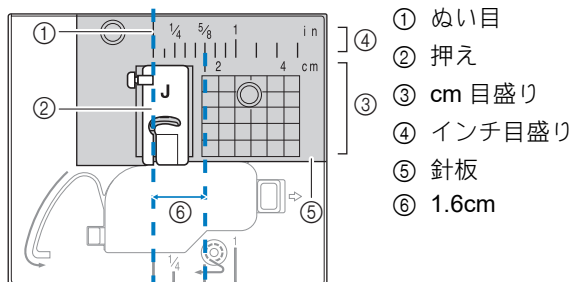


- 針位置を右へ移動します。
- 針位置を左へ移動します。

針板を基準にする

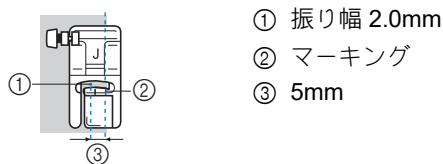
針板には、直線 [左] の針位置からの長さが表示されています。針板に刻まれている目盛りと布端を合わせてぬいます。上側の目盛りは 1/8 インチ (約 3mm) 単位、下側の目盛りは 5mm 単位になっています。

左基線の模様の場合 (振り幅: 0.0mm)



ジグザグ押え<J>を基準にする

ジグザグ押え<J>のマーキングを使用して、布端から約 5mm の幅でぬうことができます。このとき直線模様の振り幅を 2.0mm にしてください。

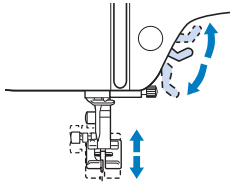


いろいろな素材をぬう

■ 厚い布地をぬう

□ 押えの下に布地が入らない場合

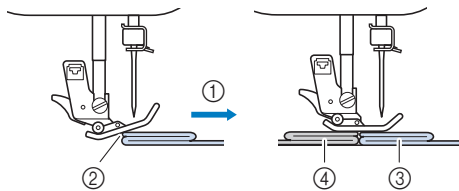
押えレバーは2段階に上がります。厚地を重ねてぬう場合など布地を入れにくいときは、レバーをさらに押し上げると、押えがもう一段上がり布地を入れやすくなります。



□ 布地が送られない場合

デニムやキルトのような厚い布地をぬうとき、下図のように、押えが水平にならず、ぬい始めに布地が送られないことがあります。そのようなときは、ジグザグ押え<J>の左側の黒いボタンを使用すると、押えを水平に保ち、スムーズに布地を送ることができます。

押えのずれが大きいときは、厚紙または布地（実際にぬう布地と同じ厚さにしておく）を押えのかかと部分の下に置き、スムーズにぬえるようにしてください。

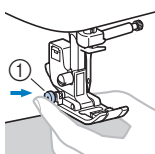


- ① ぬう方向
- ② ずれ
- ③ 実際にぬう布地
- ④ 布地または厚紙

1 押えレバーを上げます。

2 ぬい始めの位置に合わせて、布地をおきます。

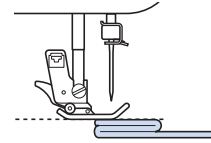
3 ジグザグ押え<J>を水平に保持して、左側の押え固定ピン（左側の黒いボタン）を押ししたまま、押えレバーを下げます。



① 押え固定ピン（黒いボタン）

4 押え固定ピン（黒いボタン）から手を離します。

→ 押えが水平に保たれ、布が送られます。



→ ぬい進めると押えは元に戻ります。

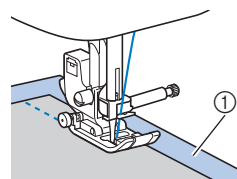
⚠ 注意

- 6mm以上の厚地をぬったり、無理に布地を押しこんだりすると、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

■ 薄い布地をぬう

シフォンのような薄い布地をぬうと、ぬい目がつれてしまったり、布がうまく送られないことがあります。

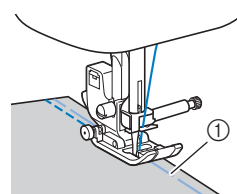
状態の良い針を使用し、針位置をいちばん左か右に設定すると、布地が送り歯の中に巻き込まれるのを防ぎやすくなります。布が巻き込まれたり、ぬい目がつれたりする場合、布地の下に水溶性シート（不織布タイプ）をしいて、布地と一緒にぬいます。



① 水溶性シート（不織布タイプ）

■ 伸びる布地をぬう

あらかじめしつけをして、布地を引っ張らないようにぬいます。ぬい目がつれる場合、布地の下に水溶性シート（不織布タイプ）をしいて、布地と一緒にぬいます。



① しつけ

ニット生地をぬうときは、伸縮ぬいを使用すると、きれいにぬうことができます。また、ニット用針（先端が丸い、金色の針）（別売）を使用してください。推奨する模様は以下の模様です。

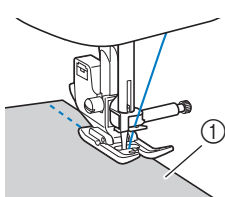
番号	05	06	11	12	43
模様					

- 詳細は、「ぬい方早見表」(P.35)を参照してください。

■ ビニールや皮革をぬう

ビニールコーティングや皮革など、押えに貼りついてぬいにくい素材にはウォーキングフット*、スムースフット*を使用します。

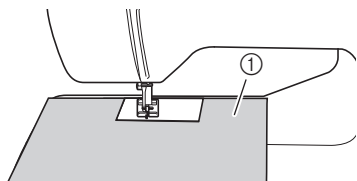
* これらの押えは別売品です。



① 皮革

テーブル面にビニールコーティングや皮革などが貼りつく場合は、テーブルの上にコピー用紙やトレーシングペーパーを置いてぬうと、滑りやすくなります。

このとき、針板にかからないように紙を置くと、紙が布と一緒にぬわれません。



① コピー用紙やトレーシングペーパー

🔔 お願い

- ウォーキングフットは、直線模様またはジグザグ模様のみで使用できます。ウォーキングフット使用時は返しぬいをしないでください。
- ウォーキングフットを使用するときは、ゆっくり～中速の速さでぬってください。
- ウォーキングフットを使用するときは、あらかじめ実際に使用する布地のはぎれで試しぬいをして、布地に押えのあとが残らないことを確認してください。

■ 面ファスナー (マジックテープ®) をぬう

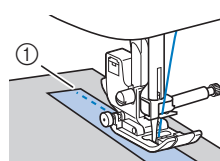
⚠️ 注意

- 面ファスナーは、のりが付いていない縫製用のものを使用してください。のりが針や内かまに付着すると、故障の原因となります。
- 面ファスナーを細い針 (9～11番) でぬうと、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

🔔 お願い

- ミシンでぬう前に、しつけをして面ファスナーと布地をぬい合わせておいてください。

プーリーを手で回して面ファスナーに針を刺し、針がスムーズに通ることを確認してから、面ファスナーの端を低速でぬいます。針が通らない場合は、厚地用の針と糸に交換してください。詳細は、「布地と糸の種類による針の使い分け」(P.18) を参照してください。



① 面ファスナーの端

飾り模様をぬう

布地	伸びる布地、薄布地、織りの粗い布地は、裏面に別売りの接着芯を貼ってください。接着芯を貼りたくないときは、ハترون紙などの薄い紙を布地の下に敷いてぬってください。
	<p>① 布地 ② 接着芯 ③ 薄い紙</p>
糸	50～60番
針	薄地、普通地：家庭用ミシン針 11番 伸びる布地：ニット用針 (別売) 厚地：家庭用ミシン針 14番

第3章 いろいろなぬい方

ぬい方早見表

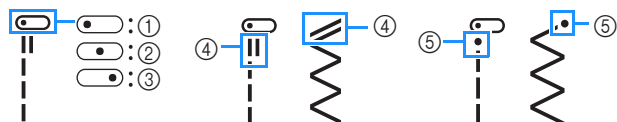
■ 実用模様

📌 お知らせ

- 以下の模様（返しぬい模様または止めぬい模様）を選択したときに、（返しぬいスイッチ）を押すと、返しぬいをします。

番号	01	02	03	04
模様				
番号	08	09	10	11
模様				
番号	12	25	26	28
模様				

- それ以外の模様を選択したときに、（返しぬいスイッチ）を押すと、止めぬいをします。
- 模様のイメージ記号は以下のことを表しています。







- 針位置が左 (左基線)
- 針位置が真ん中 (中基線)
- 針位置が右 (右基線)
- 返しぬい模様
- 止めぬい模様















📌 お願い



- ウォーキングフットは、直線模様またはジグザグ模様のみで使用できます。ウォーキングフット（別売）を使用するときは、返しぬいをしないでください。











模様 (押え)	番号	名前/主な用途	振り幅 (mm) 自動 手動	ぬい目の長さ (mm) 自動 手動
	01	直線 (左基線) 地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	0.0 0.0 - 7.0	2.5 0.2 - 5.0
	02	直線 (左基線) 地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	0.0 0.0 - 7.0	2.5 0.2 - 5.0

模様 (押え)	番号	名前/主な用途	振り幅 (mm) 自動 手動	ぬい目の長さ (mm) 自動 手動
	03	直線 (中基線) 地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	3.5 0.0 - 7.0	2.5 0.2 - 5.0
	04	直線 (中基線) 地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	3.5 0.0 - 7.0	2.5 0.2 - 5.0
	05	3重ぬい 丈夫なぬい目なので、袖つけや股下をぬうときに便利です。また、伸びる布地をぬうときやステッチをかけるときに使用します。	0.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 4.0
	06	伸縮ぬい 伸縮性のあるぬい目なので、伸びる布地をぬうときに使用します。また、飾りぬいとしても使用します。	1.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 4.0
	07	しつけぬい しつけに使用します。布から糸が抜ける場合は、ぬい始める前に下糸を引き上げて、上糸と下糸を押えの下から後ろ側に引き出します（「下糸を引き出す」(P.17) 参照）。上糸と下糸を持ちながらぬい始め、ぬい終わったら糸を長めに切ります。最後にぬい始めの上糸と下糸を持ちながら、布を整えます。	0.0 0.0 - 7.0	-
	08	ジグザグ (中基線) たち目かがりやアップリケなどに使用します。	3.5 0.0 - 7.0	1.4 0.0 - 4.0
	09	ジグザグ (中基線) たち目かがりやアップリケなどに使用します。	3.5 0.0 - 7.0	1.4 0.0 - 4.0
	10	ジグザグ (右基線) 右の針位置からぬい始めます。	3.5 2.5 - 5.0	1.4 0.3 - 4.0
	11	2点ジグザグ 普通地、伸びる布地のたち目かがりやゴムひもつけ、つくるいぬいなど幅広い用途に使用します。	5.0 0.0 - 7.0	1.0 0.2 - 4.0
	12	3点ジグザグ 普通地、厚地、伸びる布地のたち目かがりやゴムひもつけ、つくるいぬいなど幅広い用途に使用します。	5.0 0.0 - 7.0	1.0 0.2 - 4.0
	13	たち目かがり 薄地、普通地のたち目かがりを使用します。	3.5 2.5 - 5.0	2.0 0.4 - 4.0
	14	たち目かがり 厚地のたち目かがりを使用します。	5.0 2.5 - 5.0	2.5 0.4 - 4.0

模様 (押え)	番号	名前/主な用途	振り幅 (mm) 自動 手動	ぬい目 の長さ (mm) 自動 手動
	15	たち目かがり 厚地のたち目かがりや飾り ぬいに使用します。	5.0 3.5 - 5.0	2.5 0.4 - 4.0
	16	たち目かがり 伸びる布地のたち目かがり に使用します。	5.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 4.0
	17	たち目かがり 普通地、厚地のたち目かがり や飾りぬいに使用します。	5.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 4.0
	18	たち目かがり 伸びる布地のたち目かがりや 飾りぬいに使用します。	4.0 0.0 - 7.0	4.0 0.4 - 4.0
	19	たち目かがり 伸びる布地のたち目かがり に使用します。	5.0 0.0 - 7.0	4.0 0.4 - 4.0
	20	サイドカッター 布を切りながら直線ぬいを します。	0.0 0.0 - 2.5	2.5 0.2 - 5.0
	21	サイドカッター 布を切りながらジグザグぬ いをします。	3.5 3.5 - 5.0	1.4 0.0 - 4.0
	22	サイドカッター 布を切りながらたち目かが りをします。	3.5 3.5 - 5.0	2.0 0.4 - 4.0
	23	サイドカッター 布を切りながらたち目かが りをします。	5.0 3.5 - 5.0	2.5 0.4 - 4.0
	24	サイドカッター 布を切りながらたち目かが りをします。	5.0 3.5 - 5.0	2.5 0.4 - 4.0
	25	ピーシング直線 (右基線) ピーシング用の直線です。押 えの右端に布地を合わせてぬ うと、ぬいしろの幅が 7.0mmでぬえるように針位 置が設定されています。	5.0 0.0 - 7.0	1.6 0.2 - 5.0
	26	ピーシング直線 (中基線) ピーシング用の直線です。	-	1.6 0.2 - 5.0
	27	手ぬい風直線 上糸にナイロン透明糸、下 糸にキルトに合った色の糸 を使用すると、手ぬい風の キルト直線がぬえます。 下糸が布の表側に見えるよ うに、糸調子を強くしてぬ います。14番または16番 の針を使用してください。	0.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 4.0
	28	ジグザグ アップリケキルトやフリーモ ーションキルト、サテンぬい などに使用します。	3.5 0.0 - 7.0	1.4 0.0 - 4.0
	29	アップリケ アップリケやバイディング をするときに使用します。	1.5 0.0 - 3.5	1.2 0.4 - 4.0
	30	キルトイング模様 キルトで背景を埋めるとき に使用します。	7.0 0.0 - 7.0	1.6 0.4 - 4.0

模様 (押え)	番号	名前/主な用途	振り幅 (mm) 自動 手動	ぬい目 の長さ (mm) 自動 手動
	31	まつりぬい 普通地のまつりぬいに使用 します。 * 振り幅設定の単位は、mm ではありません。	00 3← - →3	2.0 0.4 - 4.0
	32	まつりぬい 伸びる布地のまつりぬいに 使用します。 * 振り幅設定の単位は、mm ではありません。	00 3← - →3	2.0 0.4 - 4.0
	33	アップリケ アップリケに使用します。	3.5 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 4.0
	34	アップリケ アップリケに使用します。	2.5 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 4.0
	35	シェルタック シェルタックは貝殻を直線状 に並べたような円弧状のひだ を作るもので、ふち取りなど に用いるほか、ブラウス、ワ ンピースなどの胸もとや袖に 飾りぬいとして使用します。	4.0 0.0 - 7.0	2.5 0.2 - 4.0
	36	サテンスカラップ スカラップは半月状の丸い カーブの連続した波形の模 様をいいます。ブラウスや ハンカチなどのふち飾りに 使用します。	5.0 0.0 - 7.0	0.5 0.1 - 4.0
	37	つきあわせ パッチワークや飾りぬいに 使用します。	4.0 0.0 - 7.0	1.2 0.2 - 4.0
	38	つきあわせ パッチワークや飾りぬいに 使用します。	5.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 4.0
	39	つきあわせ コードなどを使った飾りぬ いに使用します。	5.0 0.0 - 7.0	1.2 0.2 - 4.0
	40	スモッキング スモッキングや飾りぬいに 使用します。	5.0 0.0 - 7.0	1.6 0.4 - 4.0
	41	ファゴティング ファゴティングは布地と布 地の間を離して糸でかかる 方法をいい、ブラウスや子 供服などに使用します。ま た、飾りぬいとしても使用 します。	5.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 4.0
	42	ファゴティング ファゴティングは布地と布 地の間を離して糸でかかる 方法をいい、ブラウスや子 供服などに使用します。ま た、飾りぬいとしても使用 します。	5.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 4.0
	43	ゴムひもつけ 伸びる布地にゴムひもをつ けるときに使用します。	4.0 0.0 - 7.0	1.0 0.2 - 4.0
	44	飾りぬい 飾りぬいに使用します。	4.0 0.0 - 7.0	3.0 0.4 - 4.0

模様 (押え)	番号	名前/主な用途	振り幅 (mm) 自動 手動	ぬい目 の長さ (mm) 自動 手動
 (Z)	45	飾りぬい 飾りぬいに使用します。	4.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 4.0
 (Z)	46	飾りぬい 飾りぬいに使用します。	5.5 0.0 - 7.0	1.6 0.4 - 4.0
 (Z)	47	飾りぬい 飾りぬいやゴムひもつけに 使用します。	5.0 0.0 - 7.0	1.0 0.2 - 4.0
 (Z)	48	飾りぬい ふち飾りなどに使用します。	6.0 0.0 - 7.0	3.0 0.4 - 4.0
 (Z)	49	飾りぬい レースつけやふち飾りなどに使 用します。	3.5 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 4.0
 (Z)	50	飾りぬい ふち飾りなどに使用します。	3.0 0.0 - 7.0	3.5 0.4 - 4.0
 (Z)	51	飾りぬい ふち飾りなどに使用します。	6.0 0.0 - 7.0	3.0 0.4 - 4.0
 (Z)	52	飾りぬい ふち飾りなどに使用します。薄 地、普通地の平織りの布に適し ています。	5.0 0.0 - 7.0	3.5 0.4 - 4.0
 (Z)	53	飾りぬい ふち飾りなどに使用します。薄 地、普通地の平織りの布に適し ています。	5.0 0.0 - 7.0	4.0 0.4 - 4.0
 (Z)	54	飾りぬい ふち飾りなどに使用します。薄 地、普通地の平織りの布に適し ています。	6.0 0.0 - 7.0	1.6 0.4 - 4.0
 (Z)	55	飾りぬい ふち飾りなどに使用します。薄 地、普通地の平織りの布に適し ています。	6.0 0.0 - 7.0	3.0 0.4 - 4.0
 (Z)	56	飾りぬい ふち飾りなどに使用します。薄 地、普通地の平織りの布に適し ています。	4.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 4.0
 (Z)	57	飾りぬい ふち飾りなどに使用します。薄 地、普通地の平織りの布に適し ています。	5.0 0.0 - 7.0	2.0 0.4 - 4.0
 (A)	58	ボタン穴かがり ねむり穴、横穴用。薄地か ら普通地のボタン穴かがり に使用します。ブラウス、 シャツなどに使用します。	5.0 3.0 - 6.0	0.4 0.2 - 1.0
 (A)	59	ボタン穴かがり 横穴用。ウエストベルトな ど力がかかるところに使用 します。	5.0 3.0 - 6.0	0.4 0.2 - 1.0
 (A)	60	ボタン穴かがり 横穴用。厚地のボタン穴か がりに使用します。	5.0 3.0 - 6.0	0.4 0.2 - 1.0
 (A)	61	ボタン穴かがり 両止めボタン穴かがり。麻、 木綿など、ある程度腰のある 素材に適しています。ホーム ウェアやブラウスなど手軽に ぬえるものに使用します。	5.0 3.0 - 6.0	0.4 0.2 - 1.0

模様 (押え)	番号	名前/主な用途	振り幅 (mm) 自動 手動	ぬい目 の長さ (mm) 自動 手動
 (A)	62	ボタン穴かがり 横穴用。厚地のボタン穴か がりに使用します。	6.0 3.0 - 6.0	1.0 0.5 - 2.0
 (A)	63	ボタン穴かがり 伸びる布地や編み地のボタン穴 かがりに使用します。	6.0 3.0 - 6.0	1.5 1.0 - 3.0
 (A)	64	ボタン穴かがり 芯ひもを入れてぬいます。伸び る布地のボタン穴かがりに使用 します。	5.0 0.0 - 6.0	2.0 0.2 - 4.0
 (A)	65	ボタン穴かがり はとめ穴。厚地や毛足の長い 布のボタン穴かがりに使用し ます。プレザー、スーツ、コ ートなどに使用します。	7.0 3.0 - 7.0	0.5 0.3 - 1.0
 (A)	66	ボタン穴かがり はとめ穴。普通地から厚地の ボタン穴かがりに使用します。 ジーンズ、ズボンなどに使用 します。	7.0 3.0 - 7.0	0.5 0.3 - 1.0
 (A)	67	ボタン穴かがり はとめ穴。厚地や毛足の長い布 の横穴ボタン穴かがりに使用し ます。厚手のコートなどに使用 します。	7.0 3.0 - 7.0	0.5 0.3 - 1.0
 (A)	68	ダーニング 厚地のつくろいぬいに使用 します。	7.0 2.5 - 7.0	2.0 0.4 - 2.5
 (A)	69	かんどめ ぬい目がほだけやすい箇所や ポケット口などのあき止まり 部分の力の加わる部分を補強 したい場合に用います。	2.0 1.0 - 3.0	0.4 0.3 - 1.0
 (M)	70	ボタンつけ ボタンつけに使用します。	3.5 2.5 - 4.5	-
 (N)	71	アイレット ベルトの調節用の穴をかかると きなどに使用します。普通地に 使用します。	7.0 7.0 6.0 5.0	7.0 7.0 6.0 5.0

■ 飾り模様

押えには、模様ぬい押え< N >を使用してください。

[E1] 飾り模様									
01	02	03	04	05	06	07	08	09	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
99*									

* 調整用の模様です。(P.55)

[E2] 飾りサテンステッチ							
01	02	03	04	05	06		
[E2] サテンステッチ							
07	08	09	10	11	12	13	14
[E2] クロスステッチ							
15	16	17	18	19			

[E3] 実用飾り模様									
01	02	03	04	05	06	07	08	09	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40

■ 文字模様

押えは、模様ぬい押え< N >を使用してください。

[A] 文字模様 (ゴシック体)									
01	02	03	04	05	06	07	08	09	10
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
U	V	W	X	Y	Z	0	1	2	3
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
4	5	6	7	8	9	#	%	-	+
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
X	÷	=	*	.	,	&	?	!	@
51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
<	>	()	[]	/	\	~	©
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
®	™	“	”	”	’	’	’	-	Ä
71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
À	Æ	Ç	Ð	Ñ	Ö	Ø	Œ	Û	ß

* 69 : スペース

[B] 文字模様 (筆記体)									
01	02	03	04	05	06	07	08	09	10
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
U	V	W	X	Y	Z	0	1	2	3
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
4	5	6	7	8	9	#	%	-	+
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
X	÷	=	*	.	,	&	?	!	@
51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
<	>	()	[]	/	\	~	©
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
®	™	“	”	”	’	’	’	-	Ä
71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
À	Æ	Ç	Ð	Ñ	Ö	Ø	Œ	Û	ß

* 69 : スペース

[A]文字模様 (アウトライン文字)									
01	02	03	04	05	06	07	08	09	10
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
U	V	W	X	Y	Z	0	1	2	3
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
4	5	6	7	8	9	#	%	=	+
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
×	÷	≡	✕	.	,	&	?	!	◎
51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
<	>	()	[]	/	\	~	◎
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
Ⓜ	TM	“	”	”	”	”	”	—	Ä
71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
À	Æ	Ç	Ð	Ñ	Ö	Ø	Œ	Ù	Û

* 69 : スペース

[あ]文字模様 (ひらがな/カタカナ/数字/漢字)									
01	02	03	04	05	06	07	08	09	10
あ	い	う	え	お	あ	い	う	え	お
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
か	き	く	け	こ	が	ぎ	ぐ	げ	ご
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
さ	し	す	せ	そ	ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
た	ち	つ	て	と	だ	ぢ	づ	て	ど
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
っ	な	に	ぬ	ね	の	は	ひ	ふ	へ
51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
ほ	ば	び	ぶ	べ	ぼ	ぱ	ぴ	ぷ	ぺ
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
ぽ	ま	み	む	め	も	や	ゆ	よ	ゃ
71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
ゆ	よ	ら	り	る	れ	ろ	わ	を	ん
81	82	83	84	85	86	87	88	89	90
ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ	エ	オ
91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
ヴ	カ	キ	ク	ケ	コ	ガ	ギ	グ	ゲ

101	102	103	104	105	106	107	108	109	110
ゴ	サ	シ	ス	セ	ソ	ザ	ジ	ズ	ゼ
111	112	113	114	115	116	117	118	119	120
ゾ	タ	チ	ツ	テ	ト	ダ	ヂ	ヅ	デ
121	122	123	124	125	126	127	128	129	130
ド	ッ	ナ	ニ	ヌ	ノ	ハ	ヒ	フ	
131	132	133	134	135	136	137	138	139	140
へ	ホ	バ	ビ	ブ	ベ	ボ	パ	ピ	プ
141	142	143	144	145	146	147	148	149	150
ペ	ポ	マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ	ユ	ヨ
151	152	153	154	155	156	157	158	159	160
ヤ	ユ	ヨ	ラ	リ	ル	レ	ロ	ワ	ヲ
161	162	163	164	165	166	167	168	169	170
ン	0	1	2	3	4	5	6	7	8
171	172	173	174	175	176	177	178	179	180
9	0	一	二	三	四	五	六	七	八
181	182	183	184	185	186	187	188	189	190
九	十	&	?	!	()	—	生	年
191	192	193	194	195	196	197	198	199	200
月	日	才	保	育	幼	稚	園	小	中
201	202	203	204	205	206	207	208	209	210
学	校	組	部	火	水	木	金	土	—

* 210 : スペース

■ 実用ダイレクト選択模様

よく使う実用模様が、各数字キーにひとつずつ割り当てられています。ダイレクト選択モードで該当のキーを押すだけで、模様を選択できます。

 実用ダイレクト選択模様	名前	番号
	直線 (左基線)	01
	直線 (左基線)	02
	直線 (中基線)	03
	直線 (中基線)	04
	ジグザグ (中基線)	08
	ジグザグ (中基線)	09
	3重ぬい	05
	伸縮ぬい	06
	たち目かがり	13
	3点ジグザグ	12

実用ぬい

⚠ 注意

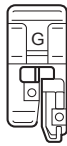
- 押えを交換するときは、必ず操作パネルの (針・押え交換キー) を押してください。 が押されていない状態でスタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。押えの交換については、「押えの交換」(P.20) を参照してください。

布端を始末する

裁断した布端がほつれないように、たち目かがりを行います。

■ たち目かがり押え<G>を使用する

- 1 たち目かがり押え<G>を取り付けます。



- 2 模様を選択します。

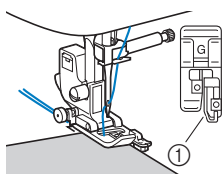
番号	13	14	15
模様			

- 詳細は、「ぬい方早見表」(P.35) を参照してください。

⚠ 注意

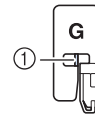
- たち目かがり押え<G>を使用するときは、必ずたち目かがり押え<G>用の模様を選んでください。間違った模様でぬうと、針が押えに当たり、針が折れたり、押えが破損したりするおそれがあります。

- 3 押えのガイドに布端を当て、押えレバーを下げます。



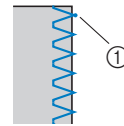
① ガイド

- 4 プーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認します。



- ① 針が当たらないように注意してください。

- 5 布端をガイドに当てながら、ガイドにそってぬいます。



① 針落ち位置

⚠ 注意

- ぬい終わった後は、布地を後ろに引いてください。前方向や横方向に布地を引っ張ると、押えのピンが破損するおそれがあります。
- 押えに糸がからみついた場合は、からんだ糸を取り除いてから、押えレバーを上げて押えを取り外してください。糸がからんだまま、押えレバーを上げると、押えが破損するおそれがあります。

- 6 ぬい終わったら、スタート/ストップスイッチを押してミシンを止め、針と押えを上げて、布地を後ろに引いて取り出します。

■ ジグザグ押え<J>を使用する

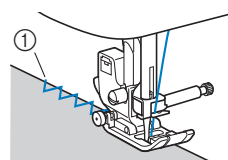
- 1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- 2 模様を選択します。

番号	08	10	11	12
模様				
番号	16	17	18	19
模様				

- 詳細は、「ぬい方早見表」(P.35) を参照してください。

- 3 針が布端右側に落ちるよう布端にそってぬいます。



① 針落ち位置

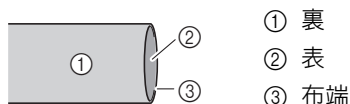
すそ上げをする

スカートやズボンのすそをまつります。

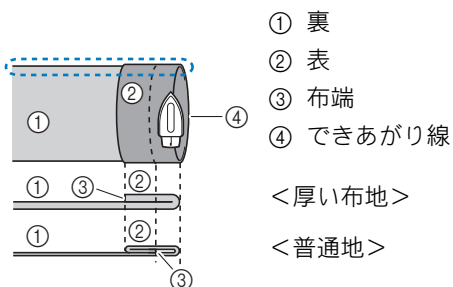
お知らせ

- 筒の大きさがアームに入らないほど小さいときや、筒の長さが短いときは、布地がうまく送られず、きれいに仕上がらないことがあります。

1 すそ上げをするスカートやズボンを裏返します。

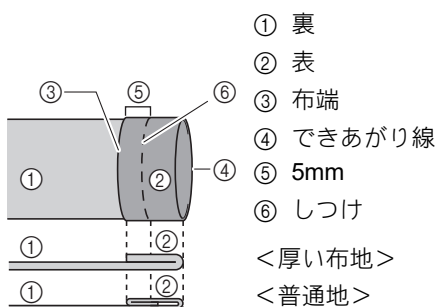


2 できあがり線で布を表に戻し、アイロンをかけます。



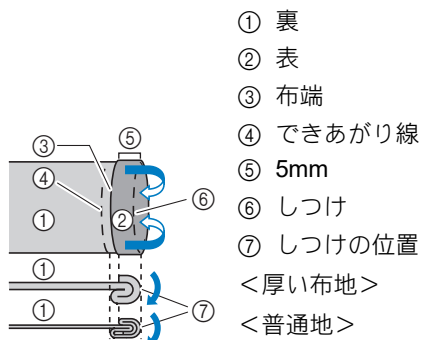
< ④ を横から見た図 >

3 布端から約 5mm のところにチャコペンで印をつけ、しつけをします。



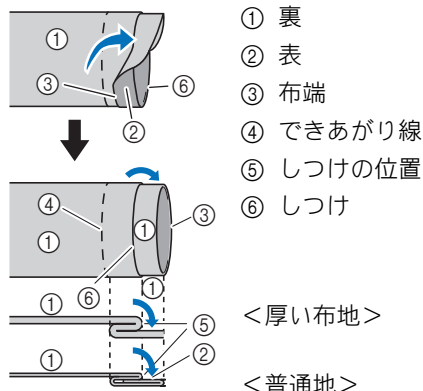
< 横から見た図 >

4 しつけをしたところから、内側へ折り込みます。



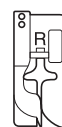
< 横から見た図 >

5 布端を開いて裏返します。



< 横から見た図 >

6 まつりぬい押えを取り付けます。



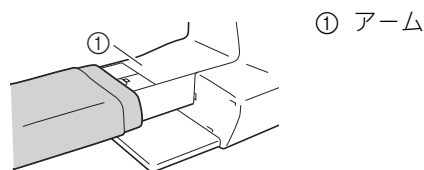
7 模様を選択します。

番号	31	32
模様		

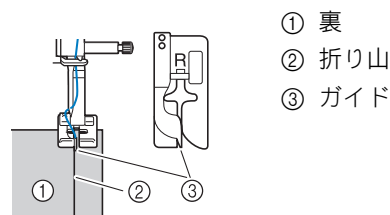
- 詳細は、「ぬい方早見表」(P.35) を参照してください。

8 補助テーブルを外して、ミシンをフリーアームにします。

9 下図のように布地をアームにセットし、布地をを回転させられることを確認して、ミシンをスタートさせます。



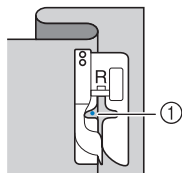
10 押えのガイドと布地の折り山が合うように布地をセットし、押えレバーを下げます。



11 針の位置を調整します。

針が折り山に少しかかるよう、振り幅を調節します。(P.30)

① 針落ち位置

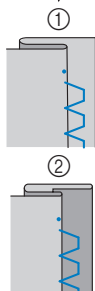


針落ち位置を変更するときは、針を上げてから振り幅を調整します。

* 振り幅を調整することで針の落ち位置の微調整ができます。(振り幅の設定の数値の単位は mm ではありません。)



- ① 厚い布地
- ② 普通地



お知らせ

- 左側の針落ち位置が折り山にかかっていないと、まつりぬいをすることができません。また、針があまり折り山のほうにかかりすぎると、折りを広げることができず布地の表側にぬい目が大きく出て、きれいに仕上がりにません。

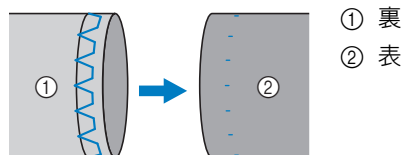
12 折り山に押えのガイドに沿わせてぬいませう。

13 ぬい終わったらミシンを止め、針と押えを上げて、布地を後ろに引いて取り出します。

お願い

- ぬい終わった後は、布地を後ろに引いてください。前方向や横方向に布地を引っ張ると、押えが破損するおそれがあります。

14 しつけをほどき、布地を表に返します。

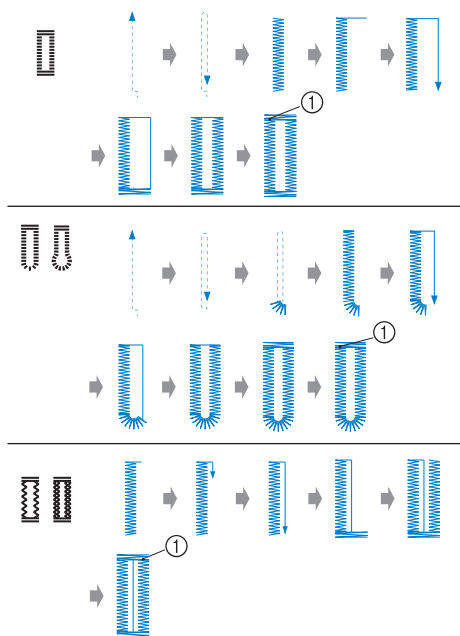


- ① 裏
- ② 表

ボタン穴かがり

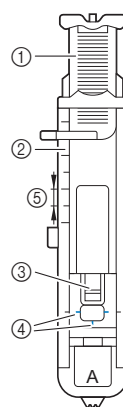
「ボタンの直径+厚み」が 28mm までのボタンの穴を作ることができます。

ボタン穴かがりは、図のように押えの手前から後ろに向かってぬいます。



① 止めぬい

ボタン穴かがりで使用するボタン穴かがり押え < A > の各部の名称は以下のとおりです。

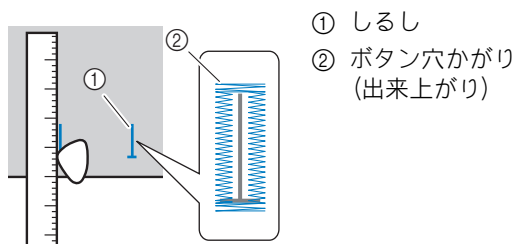


- ① 台皿
- ② 押えスケール
- ③ ピン
- ④ しるし
- ⑤ 5mm

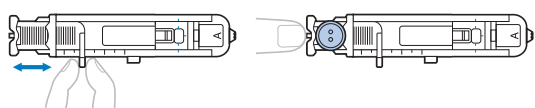
お願い

- ボタン穴かがりをする前に、ぬい目の長さや振り幅を確認するために、実際に使用する布のはぎれを使用して試しぬいをしてください。

- 1 布地の穴かがりをする位置に、ボタン穴の長さのしるしをつけます。

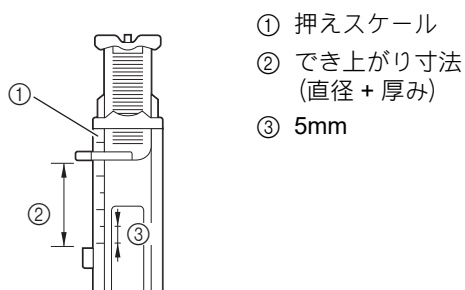


- 2 ボタン穴かがり押え<A>の台皿を引き出し、ボタン穴に通すボタンをのせてはさみます。

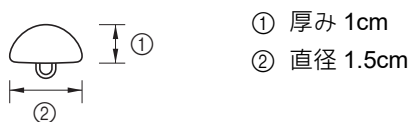


■ ボタンが台皿にのらない場合

押えスケールの目盛りを使用して、穴かがりの大きさを設定します。押えスケールは1目盛り5mmです。押えスケールの目盛りをボタンの直径+厚みの寸法に合わせてください。



例：直径 1.5cm 厚み 1cm のボタンの場合、2.5cm の目盛りに合うように、台皿を引き出します。



→ ボタン穴かがりの大きさが決まります。

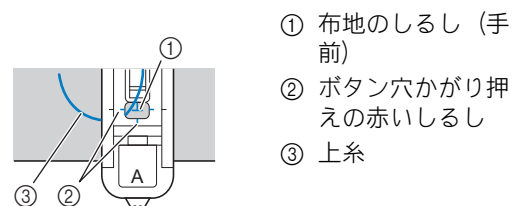
- 3 ボタン穴かがり押え<A>を取り付けます。
ボタン穴かがり押え<A>を取り付ける前に、上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

- 4 模様を選択します。

番号	58	59	60	61	62
模様					
番号	63	64	65	66	67
模様					

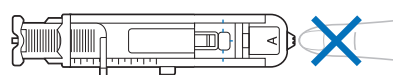
・ 詳細は、「ぬい方早見表」(P.35) を参照してください。

- 5 ボタン穴かがり押えの赤いしるし両側と布地のしるし手前側を合わせ、押えレバーを下げます。

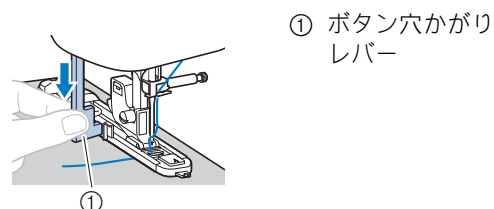


💡 お願い

- 押えを下げるときに、押えの手前部分を押しさないでください。ボタン穴が正確な大きさにぬえません。



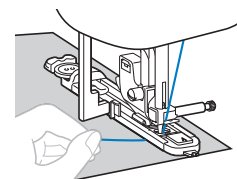
- 6 ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。



ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。



- 7 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



→ ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

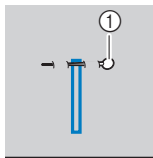
- 8 ⊗ (糸切りスイッチ) を 1 回押して糸を切り、押えを上げて布地を取り出します。

📖 お知らせ

- ミシン左側の糸切りやはさみで糸を切る場合は、⊕ (針上下スイッチ) で針を上げ、押えも上げて、布を引き出してから糸を切ってください。

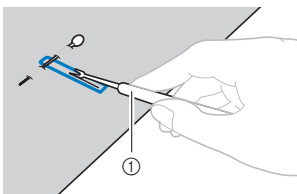
- 9 ボタン穴かがりレバーを元に戻します。

- 10 ぬった部分を切らないように、かんぬき止めの片方の内側にまち針を刺します。



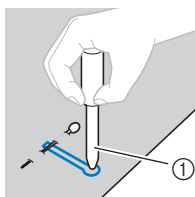
① まち針

- 11 リッパーをまち針の方へ向けて、ボタン穴を切り開きます。



① リッパー

はとめ穴の場合は、ボタン穴の丸い側にはとめ穴パンチで穴をあけてから、リッパーで切り開きます。



① はとめ穴パンチ

- はとめ穴パンチを使用するときは、布地に穴をあける前に布地の下に厚紙や保護シートを敷いてください。

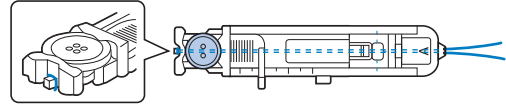
⚠️ 注意

- リッパーで穴をあける方向に、手や指を置かないでください。すべったときにけがをするおそれがあります。
- リッパーは、本来の使用目的以外での使用はしないでください。

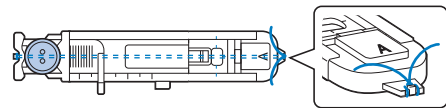
■ 伸びる布地をぬうとき

伸びる布地にボタン穴かがりをするときには、芯ひもを入れてぬいます。

- 1 ボタン穴かがり押え<A>の図の部分に芯ひもをかけます。



- 2 芯ひもの端を反対側のミゾにはさんで軽く結びます。



- 3 ボタン穴かがり押え<A>を取り付けます。

- 4 模様を選択します。

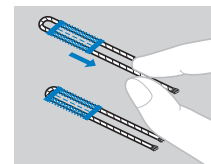
番号	62	63
模様		

- 詳細は、「ぬい方早見表」(P.35) を参照してください。

- 5 芯ひもの太さより大きめに振り幅を設定します。

- 6 押えレバーを下げ、ボタン穴かがりレバーを下げて、ミシンをスタートさせます。

- 7 ぬい終わったら、芯ひもを引いてたるみをなくします。



- 8 手ぬい針を使用して布地の裏側に芯ひもを引き出して結びます。

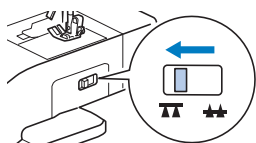
ボタンつけ

このミシンではボタンつけができます。ボタンつけができるのは、2つ穴または4つ穴のボタンです。

① ぬい付けるボタンの穴の距離を測ります。

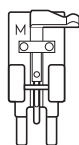


② ミシン本体背面下側にあるドロップレバーを背面から見て左側 (T) にします。



→ 送り歯が下がります。

③ ボタン付け押え < M > を取り付けます。



④ 模様を選択します。

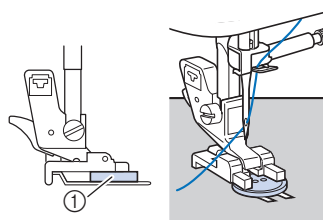
番号	70
模様	⊖

- 詳細は、「ぬい方早見表」(P.35) を参照してください。
- あとで糸端を結ぶので、自動糸切りは設定しないでください。

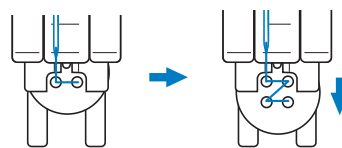
⑤ 振り幅を穴の距離に合わせます。

⑥ ぬい付ける位置にボタンを置き、押えを下げます。

① ボタン

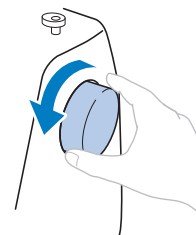


- 4つ穴のボタンをつけるときは、手前の穴を先にぬいます。手前の穴をぬい終わったら、ボタンをずらして後ろの穴に合わせ、もう一度ぬいます。



⑦ プーリーを手前に回し、針がボタンに当たらずにボタン穴に交互に入るか確認します。

針がボタンに当たりそうな場合は、ボタン穴の距離を計り直し、振り幅を穴の距離に合わせます。



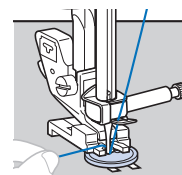
注意



- ぬう際には、ボタンに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

⑧ ミシンをスタートさせます。

スピードコントロールレバーは「ゆっくり」にします。



→ ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

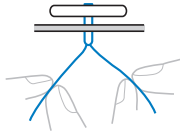
- ⊗ (糸切りスイッチ) は使用しないでください。

3

いろいろぬい方

- 9 ぬい始めの上糸と下糸を、はさみで切ります。

ぬい終わりの上糸を布地の裏に引き出し、下糸と結びます。



- 10 ボタンつけが終わったら、ドロップレバーを背面から見て右側(▲▲)にし、補助テーブルを元に戻します。

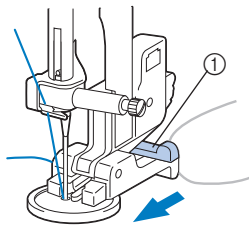
お知らせ

送り歯は、次にぬい始めたときに上がります。

■ 足をつけるとき

ボタンの付け根に足(糸足)をつけるときは、ボタンと布地の間にすき間をあけた状態でぬい、あとで手で巻きつけます。ボタンをしっかりとつけることができます。

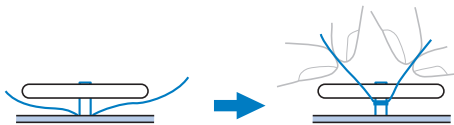
- 1 ボタン付け押え<M>にボタンを取りつけたら、足レバーを手前に引きます。



① 足レバー

- 2 ぬい終わったら、上糸を長めに切り、ボタンと布地の間の糸足に巻きつけて、ぬい始めの上糸と結びます。

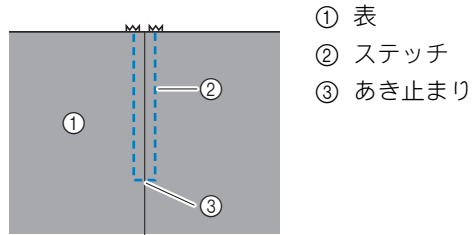
ぬい始めとぬい終わりの下糸は、布地の裏側で結びます。



- 3 余分な糸を切ります。

ファスナーつけ

つき合わせた布地の両方にステッチが入ります。

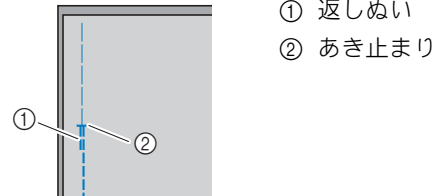


① 表
② ステッチ
③ あき止まり

- 1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

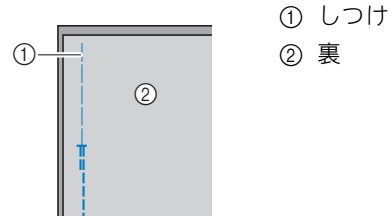
- 2 あき止まりから下側に地ぬいをします。

布地は中表にし、あき止まりは返しぬいをします。



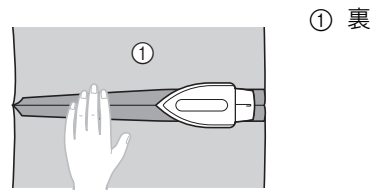
① 返しぬい
② あき止まり

- 3 ファスナーをつける部分のでき上がり線にしつけをします。



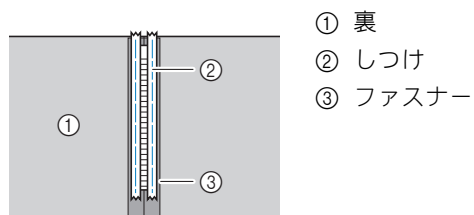
① しつけ
② 裏

- 4 ぬいしろを割り、裏からアイロンをかけます。



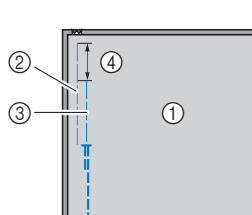
① 裏

- 5 ぬい目とファスナーの中央を合わせて、しつけをします。



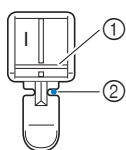
① 裏
② しつけ
③ ファスナー

6 でき上がり線のしつけを布端から5cmの位置までほどきます。



- ① 裏
- ② ファスナーのしつけ
- ③ でき上がり線のしつけ
- ④ 5cm

7 片押え<I>のピンの右側を押えホルダーに取り付けます。



- ① ピン右側
- ② 針落ち位置

8 模様を選択します。

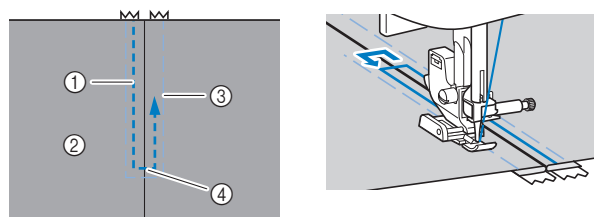
番号	03
模様	

- 詳細は、「ぬい方早見表」(P.35)を参照してください。

⚠ 注意

- 片押え<I>を使用するときは、必ず直線 [中] を使用し、プーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

9 布地の表からステッチをかけます。



- ① ステッチ
- ② 表
- ③ しつけ
- ④ あき止まり

⚠ 注意

- めう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

お知らせ

- 押えがファスナーのスライダーに当たる場合は、針が下がった(布地に刺さった)状態にして押えを上げます。押えに当たらないようスライダーを動かしてから、押えを下げ続きをぬいます。

10 しつけをほどきます。

アップリケ／パッチワーク／キルトぬい

■ アップリケ





- 1 アップリケ布を土台用の布にしつけするか、のりづけをして固定します。

🔍 お願い

- のりでアップリケ布を土台になる布にとめる場合は、ミシンでぬう部分にのりをつけないでください。のりが針やかまに付着すると故障の原因となります。

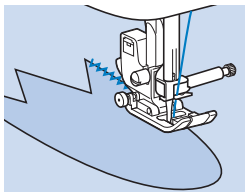
- 2 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- 3 模様を選択します。

番号	28	29	33	34
模様				

- 詳細は、「ぬい方早見表」(P.35)を参照してください。

- 4 プーリーを手前に回し、アップリケ布の端から少し外側に針が刺さるようにしてぬい始めます。



急な角度をぬうときは、アップリケ布の外側に針を刺したままミシンを止め、押えレバーを上げて少しずつ方向を変更しながらぬいます。





■ パッチワーク (クレイジーキルト)

- 1 上側になる布地の端を折って下側の布地と重ねます。

- 2 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

- 3 模様を選択します。

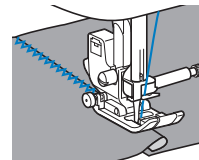
- 下記の模様は例です。お好みの模様を選択してください。

番号	28	37	38	39
模様				

- 詳細は、「ぬい方早見表」(P.35)を参照してください。

- 4 両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。

必要に応じてまち針を使用してください。



⚠ 注意

- まち針をぬわないようにご注意ください。

■ ピーシング


パッチワークで布と布(ピース)をぬい合わせることを、「ピーシング」といいます。布地は、すべて7mmのぬいしろを付けて裁断します。

ピーシング用直線は、押えの右端、または左端から7mmのところをぬいます。

- 1 ピーシングする布地のぬいしろを、しつけまたはまち針で留めます。

- 2 ジグザグ押え<J>を取り付けます。


- 3 模様を選択します。

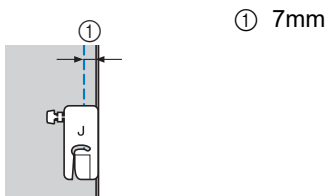
番号	25
模様	

- 詳細は、「ぬい方早見表」(P.35)を参照してください。


4 押えの端に布端を合わせてぬいます。

□ぬいしろが右側するとき

押えの右端に布端を合わせ、の模様でぬいます。



□ぬいしろが左側するとき

押えの左端に布端を合わせ、振り幅を 2.0mm に設定し、の模様でぬいます。



お知らせ

- ぬいしろの幅を変更する（針位置を変更する）場合は、「振り幅を調節する」（P.30）、「布端から一定の距離をぬう」（P.32）を参照してください。

■キルティング

表布と裏布の間にキルト綿をはさんでぬい合わせることを、「キルティング」といいます。ウォーキングフット* やキルター* を使用すると、きれいにぬうことができます。

* これらは別売品です。

お願い

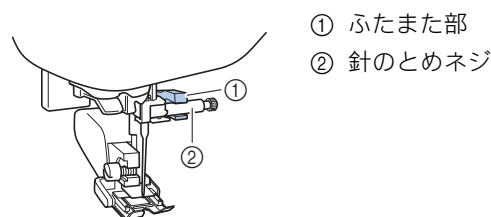
- ウォーキングフットを使用するときは、手で針に糸を通してください。糸通し装置を使用する場合は、糸を通した後にウォーキングフットを取り付けてください。
- キルティングでは、14 番の針を使用してください。
- ウォーキングフットは、直線模様またはジグザグ模様のみで使用できます。ウォーキングフット使用時は返しぬいをしないでください。
- ウォーキングフットを使用するときは、速さをゆっくり～中速でぬってください。
- ウォーキングフットを使用するときは、あらかじめ実際に使用する生地のはぎれで試しぬいをしてください。

1 布地にしつけをします。

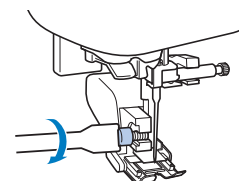
2 押えと押えホルダーを取り外します。

- 詳細は、「押えホルダーを取り外す／取り付ける」（P.22）を参照してください。

3 ウォーキングフットのレバーのふたまた部分で、針のとめネジをはさみます。





4 押えレバーを下げ、押えホルダーのネジをドライバーで確実にしめます。



注意

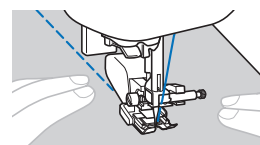
- ネジはドライバーで確実にしめてください。ネジの締め方がゆるいと、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 必ず、ぬう前にプーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

5 模様を選択します。

番号	04	28
模様		

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.35）を参照してください。

6 押えの両側に手を置き、布地をしっかりと張ってぬいます。



□ キルターを使用する（別売）

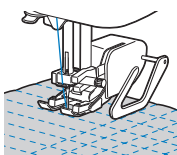
キルターを使用すると、ぬい目を平行にそろえて等間隔にぬうことができます。

- 1 ウォーキングフットまたは押えホルダーの後部にある穴に、キルターの棒を差し込みます。

□ ウォーキングフット □ 押えホルダー



- 2 ぬい終わったぬい目とキルターのガイドが合うように、棒の長さを調節します。



■ フリーモーションキルト

フリーモーションキルトでは、フットコントローラーを取り付けて、一定の速度でぬうことをおすすめします。ぬう速度は、ミシンのスピードコントロールレバーで調節できます。

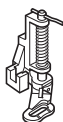
注意



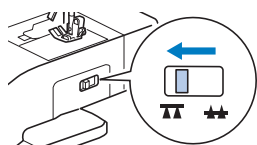
- フリーモーションキルトでは、ぬう速度に合うように布を動かしてください。無理に速く布地を動かすと、針が折れたり、他の損傷が起きるおそれがあります。

キルト押え（別売）は、ジグザグ模様や飾り模様をフリーモーションキルトでぬう場合や、厚さが均一ではない布地にフリーモーションキルトの直線ぬいをする場合に使用します。

□ キルト押え



- 1 ミシン本体背面下側にあるドロップレバーを背面から見て左側（▲▲）にします。



→ 送り歯が下がります。

- 2 模様を選択します。

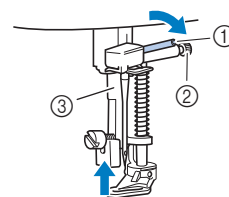
番号	04	28
模様		

- 詳細は、「ぬい方早見表」(P.35) を参照してください。

- 3 押えホルダーを取り外します。

- 詳細は、「押えホルダーを取り外す／取り付ける」(P.22) を参照してください。

- 4 キルト押えのピンを針のとめネジの上に配置して、左下を押え棒に合わせて、キルト押えを取り付けます。

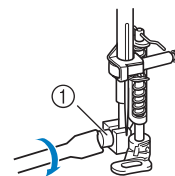


- ① ピン
- ② 針のとめネジ
- ③ 押え棒

お願い

- キルト押えが傾いていないことを確認してください。

- 5 右手でキルト押えを持ちながら、左手で押えホルダーのネジをドライバーでしめます。



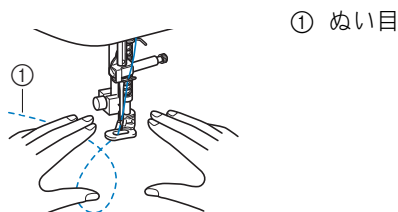
- ① 押えホルダーのネジ

注意



- ネジをしめるときは、必ず付属のドライバーを使用してください。ネジを確実にしめないと針がキルト押えに当たり、曲がったり折れたりするおそれがあります。

- 6 両手で布地を引っ張り、一定の速度で布地を送り、ぬい目の長さが均一に約 2.0 ~ 2.5mm になるようにぬいます。

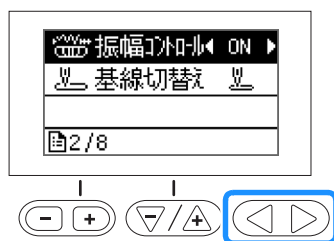


- 7 ぬい終わったら、ドロップレバーを背面から見て右側 (▲▲) にし、プーリーを回して送り歯を上げます。

■ スピードコントロールレバーを使用したサテンぬい

サテン模様でジグザグの振り幅を変化させて、飾り模様をぬうことができます。スピードコントロールレバーの設定を変更して、振り幅の調節が手もとでできるようにします。この機能が設定されているときは、フットコントローラー (別売) を使用してぬいます。

- 1 フットコントローラーを取り付けます。
- 2 ジグザグ押え < J > を取り付けます。
- 3 を押して、設定画面 2 ページの (振り幅コントロール) を [ON] にします。



→ 模様の振り幅がスピードコントロールレバーで調節できるように設定されました。

- 4 模様を選択します。

番号	28
模様	

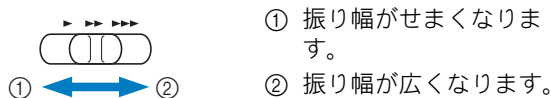
- 詳細は、「ぬい方早見表」(P.35) を参照してください。

📄 お知らせ

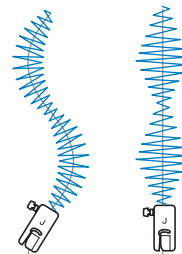
- 仕上がりは、布地の種類や糸の太さによっても変わりますが、ぬい目の長さを 0.3 ~ 0.5mm に設定すると、きれいにぬうことができます。

- 5 ぬいながら、スピードコントロールレバーを動かして、振り幅を調節します。

- ぬう速度は、フットコントローラーで調節します。



- ① 振り幅がせまくなります。
- ② 振り幅が広くなります。



- 6 ぬい終わったら、 (振り幅コントロール) を [OFF] に戻します。

その他のぬい方

■ ゴムテープつけ

そで口やウエストなどにゴムテープをぬいつける場合、ゴムテープが縮んでいる状態ができ上がり寸法になります。必要な長さのゴムテープを用意します。

- 1 まち針で布地の裏側にゴムテープを留めます。

布地とゴムテープが均等になるようにまち針で数か所留めます。



- 2 ジグザグ押え < J > を取り付けます。

- 3 模様を選択します。

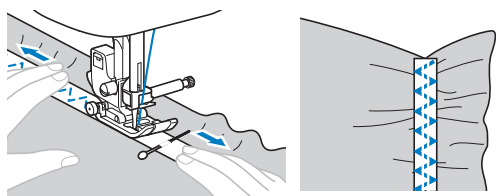
番号	11	12	43
模様			

- 詳細は、「ぬい方早見表」(P.35) を参照してください。

- 4 ゴムテープが布地と同じ長さになるように伸ばしながらぬいます。

左手で後ろ側の布地を引っ張り、右手で押えに一番近いまち針のところを引っ張ります。

3
いろいろぬい方



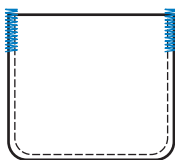
! **注意**

- ぬう際には、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

■ かんどめ

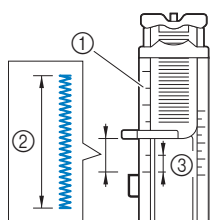
かんどめは、ポケット口やあき止まりなど、力のかかる部分を補強するときに使用します。

ここでは、ポケット口にかんどめをする場合を例に説明します。



1 かんどめの長さを決めます。

ボタン穴かがり押え< A >の押えスケールの目盛り(1目盛り5mm)を合わせて、長さを決めます。



- ① 押えスケール
- ② かんどめのでき上がり寸法
- ③ 5mm

・ 最大約 28mm のかんどめができます。

2 ボタン穴かがり押え< A >を取り付けます。

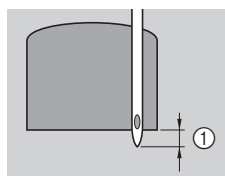
ボタン穴かがり押え< A >を取り付ける前に、上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

3 模様を選択します。

番号	69
模様	

・ 詳細は、「ぬい方早見表」(P.35)を参照してください。

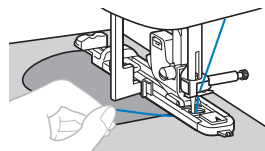
4 ポケット口が手前になる向きに布地を置き、ポケット口より2mm手前に針が刺さる位置で押えレバーを下げます。



① 2mm

5 ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。

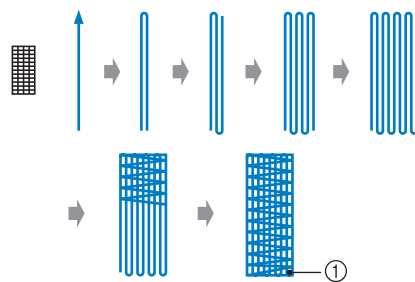
6 左手で上糸の端を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



7 ぬい終わったら押えレバーを上げ、布地を取り出してから、糸を切ります。

8 ボタン穴かがりレバーを上げて、元に戻します。

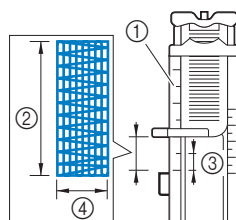
■ ダーニング (つくろいぬい)



① 止めぬい

1 つくろいぬいをする長さを決めます。

ボタン穴かがり押え< A >の押えスケールの目盛り(1目盛り5mm)を合わせて、長さを決めます。



- ① 押えスケール
- ② ダーニングのでき上がり寸法
- ③ 5mm
- ④ 2.5 ~ 7.0mm

→ ぬい終わると、自動的に止めぬいをして止まります。

2 ボタン穴かがり押え< A >を取り付けます。

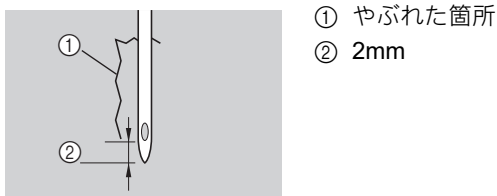
ボタン穴かがり押え< A >を取り付ける前に、上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

3 模様を選択します。

番号	68
模様	

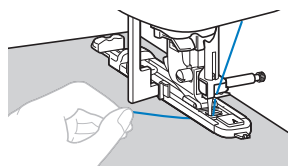
・ 詳細は、「ぬい方早見表」(P.35) を参照してください。

4 やぶれた箇所から 2mm 手前に針が刺さるように布地を置き、押えを下げます。



5 ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。

6 左手で上糸の端を軽く持ち、ぬい始めます。



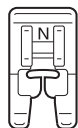
7 ぬい終わったら、押えレバーを上げ、布地を取り出してから、糸を切ります。

8 ボタン穴かがりレバーを上げて、元に戻します。

■ はとめ穴を作る

ベルトの穴などに使用するはとめ穴 (アイレット) を作ります。

1 模様ぬい押え < N > を取り付けます。



2 模様を選択します。

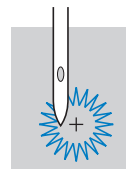
番号	71
模様	

・ 詳細は、「ぬい方早見表」(P.35) を参照してください。

3 振り幅、またはぬい目の長さのいずれかを調節して、穴の大きさを選択します。

・ 詳細は、「振り幅を調節する」(P.30) および「ぬい目の長さを調節する」(P.30) を参照してください。

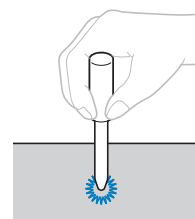
4 ぬい始めの位置に針を刺し、押えレバーを下げます。



5 ぬい始めます。

→ ぬい終わると、自動的に止めぬいをして止まります。

6 布地を取り出したあと、はとめ穴パンチで中心部に穴をあけます。



・ はとめ穴パンチを使用するときは、布地に穴をあける前に布地の下に厚紙や保護シートを敷いてください。

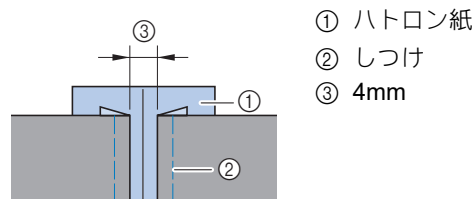
■ ファゴティング

布地と布地の間を離して糸でかがるぬい方を「ファゴティング」といいます。ブラウスや子供服などに使用します。太い糸を使用するときれいに仕上がります。

1 布地をでき上がり線で折って、アイロンをかけておきます。



2 ハトロン紙などの薄い紙に 4mm の間隔をあけて、布地をしつけします。

ハトロン紙の中央に線を書いておくとぬいやすくなります。



3 ジグザグ押え < J > を取り付けます。

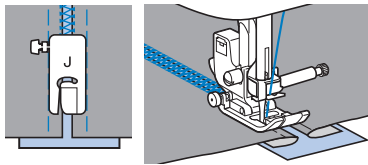
4 模様を選択します。

番号	41	42
模様		

・ 詳細は、「ぬい方早見表」(P.35) を参照してください。

5 ジグザグの振り幅を 7.0mm に設定します。

6 押えの中心を布地と布地の中心に合わせてぬいます。



7 ぬい終わったら、紙を取り除きます。

■ スカラップ

貝殻を並べたような連続した波形の模様を「スカラップ」といいます。ブラウスの衿やふち飾りなどに使用します。

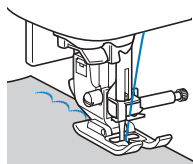
1 模様ぬい押え < N > を取り付けます。

2 模様を選択します。

番号	36
模様	

・ 詳細は、「ぬい方早見表」(P.35) を参照してください。

3 模様が布端にかからないように、布端から少し離してぬいます。



4 ぬい目にそって布端を切ります。

・ ぬい目を切らないように注意してください。

■ スモッキング

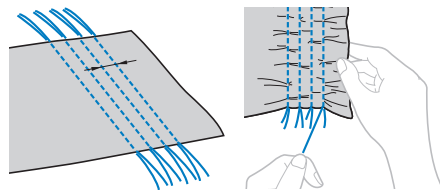
ギャザーの上に飾りぬいまたは刺しゅうをすることを「スモッキング」といいます。ブラウスの胸もとやそで口の飾りなどに使用します。布地に模様を施すと同時に伸縮性もつけられる、飾りと実用を兼ねたぬい方です。

1 ジグザグ押え < J > を取り付けます。




2 直線を選択し、ぬい目の長さを 4.0mm、上糸調子を弱めに設定します。

3 1cm の間隔をあけて、平行に数本ぬい、下糸を引いてギャザーをよせます。

アイロンでギャザーを整えておきます。

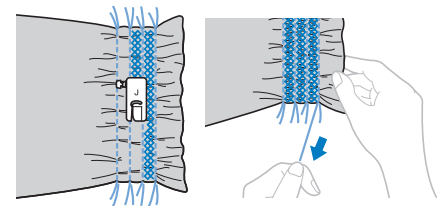


4 模様を選択します。

番号	40	41	42
模様			

・ 詳細は、「ぬい方早見表」(P.35) を参照してください。

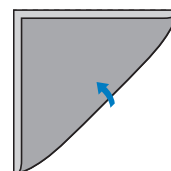
5 直線ぬいの間をぬい、直線ぬいの糸を抜き取ります。



■ シェルタック

貝殻を並べたような連続したひだを作ることを「シェルタック」といいます。ふちどりや、ブラウスの胸もと、そで口の飾りなどに使用します。薄地の布地を使用します。

1 布地をバイアスに折ります。



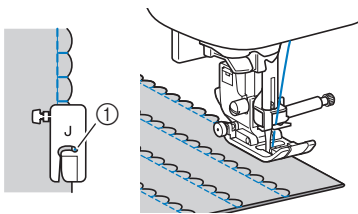
2 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

3 模様を選択し、糸調子を強めにします。

番号	35
模様	

- ・ 詳細は、「ぬい方早見表」(P.35)を参照してください。

4 針が布端から少し外に落ちるようにぬいます。



① 針落ち位置

5 ぬい終わったら、布地を取りだします。布地を開き、折り山を片側に倒してアイロンをかけます。

■ つき合わせ

つき合わせたぬいしろ部分の上から飾り模様をぬいます。クレイジーキルトなどに使用します。

1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

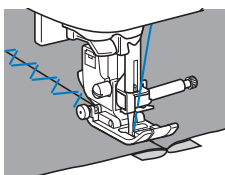
2 直線ぬいを選択し、布地を中表にしてぬい合わせ、ぬいしろを開きます。

3 模様を選択します。

番号	37	38	39
模様			

- ・ 詳細は、「ぬい方早見表」(P.35)を参照してください。

4 布地を表に返し、押えの中心と布地と布地の中心を合わせてぬいます。



模様の調整をする

布地の種類、厚さ、接着芯の種類、ぬう速さなどによっては、模様がかずれることがあります。模様がかずれた場合は、実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをし、次のように調整してください。以下で説明する調整をしても模様がかずれる場合は、個々の模様で調整してください。

お知らせ

- ・ この調整は、 (キルティング模様)、 (アイレット模様)、飾り模様、文字模様に対して有効です。詳細は、「ぬい方早見表」(P.35)を参照してください。

1 カテゴリーの (99番)を選択します。

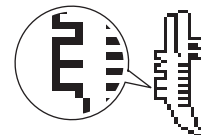


2 模様ぬい押え<N>を取り付け、模様をぬいます。

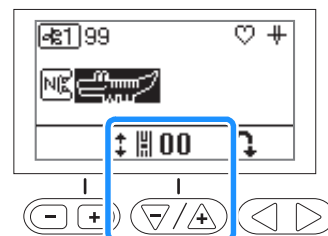
お願い

- ・ 必ず、模様ぬい押え<N>を使用してください。他の押えでは、模様の調整が正しくできないことがあります。

3 ぬい上がりを次の正しい模様と比較します。

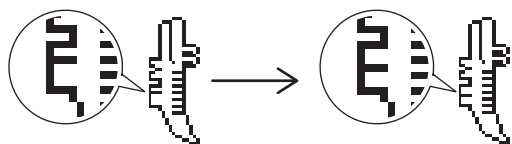


4 を押して、模様のたて方向調整をします。



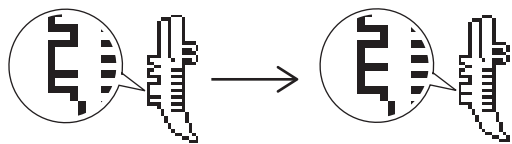
□ 模様がつまっているとき：
ぬい目の長さ調節キーの「+」側を押します。

- このキーを押すごとに表示値が大きくなり、模様が伸びます。



□ 模様にすきまがあるとき：
ぬい目の長さ調節キーの「-」側を押します。

→ このキーを押すごとに表示値が小さくなり、模様がつまります。



5 もう一度ぬいます。

• 模様がくずれている場合はもう一度調整します。正しい模様がぬえるようになるまで調整してください。

🔔 **お願い**

• この模様をぬうときは、スピードコントロールレバーを使用できません。

📖 **お知らせ**

• 模様の調整は、設定画面ですることもできます。
[設定]を押して設定画面の5ページを表示し、
◀ ▶で模様のたて方向を調整してください。



模様の記憶

模様を記憶させる

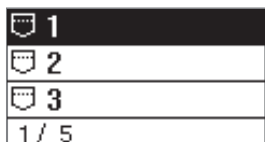
組み合わせた模様は、記憶させておくことができます。

🔔 **お願い**

• 模様の記憶中は、電源スイッチを切らないでください。記憶されている模様データが消えるおそれがあります。

1 [OK]を押します。

→ 模様を記憶するためのポケットの一覧が表示され、空いているポケットを選択した状態になります。



2 ▼/△または(-) (+)を押して模様を規則させるポケットを選択し、[OK]を押します。

📖 **お知らせ**

- すでに模様が記憶されているポケットに新しい模様を記憶させると、模様は上書きされます。
- 空いているポケットがない場合は、削除可能な模様が記憶されているポケットを選択し、模様を上書きしてください。
- ◀ ▶を押して模様を左右にスクロールすると、選択したポケットの模様全体を確認することができます。
- 記憶させた模様を消去するには、別の模様を上書きする必要があります。ポケットを空にしたいときは、模様を選択していない状態で[OK]を押します。

模様を呼び出す

マシンに記憶させた模様を呼び出します。

1 [呼び出し]を1回または2回押して、以下のような、記憶させた模様の一覧を表示します。



2 ▼/△または(-) (+)を押して、呼び出した模様を選択します。



→ 選択中のポケットが白黒反転表示されます。

第4章 付録

お手入れのしかた

⚠ 注意



- ・ ミシンの掃除は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。けがまたは感電の原因となります。

本製品の汚れをふき取るときは、水かぬるま湯を含ませた、やわらかい布を固く絞ってふいてください。ふいた後は、乾いたやわらかい布で水分をふき取ってください。

画面が汚れた場合は、乾いたやわらかい布等で軽くふきとってください。有機溶剤や洗剤は使用しないでください。

注油に関して

お客様ご自身による本製品への注油は行わないでください。故障の原因となります。本製品の動作に必要な油はあらかじめ十分に塗布されて出荷されていますので、定期的注油する必要はありません。万一、プーリーを回すと重い、異常な音がするなどの症状が発生した場合は、ただちに使用をやめて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（マシン 119 番）」にご相談ください。

ミシンを保管するときのご注意

以下の場所にミシンを保管しないでください。結露によるさびの発生など、故障の原因となります。

- ・ 温度が著しく高くなる場所
- ・ 温度が著しく低くなる場所
- ・ 急激に温度が変化する場所
- ・ 湿気、湯気が多い場所
- ・ 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所
- ・ 屋外や直射日光の当たる場所
- ・ ほこり、油煙の多い場所

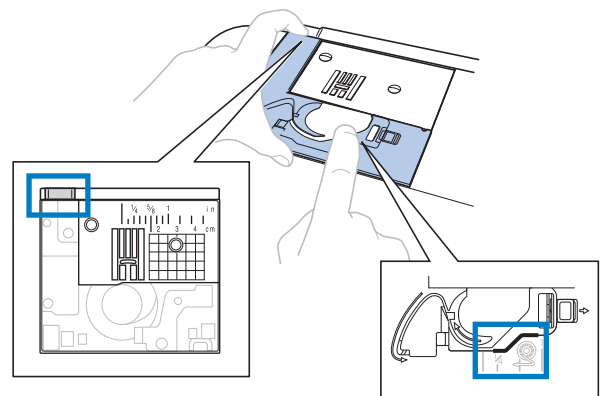
🙏 お願い

- ・ 本製品を末永くご愛用いただくために、ときどき電源を入れて、縫製してください。長期間保管したまま使用しない状態が続くと、ミシンの性能を損なうおそれがあります。

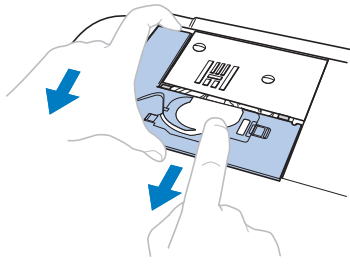
かまの掃除

かまには糸くずやほこりがたまりやすく、縫製不良の原因になる場合があります。定期的に掃除してください。

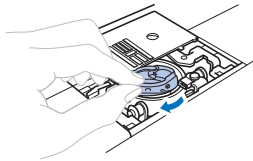
- 1 ⬆️ (針上下スイッチ) を押して針を上げます。
- 2 電源を切ります。
- 3 電源プラグをコンセントから抜きます。
- 4 押えを取り外します。
 - ・ 「押えの交換」(P.20) を参照してください。
- 5 針を取り外します。
 - ・ 「針の交換」(P.19) を参照してください。
- 6 補助テーブルを取り付けている場合は外します。
- 7 針板ふたを外します。
- 8 右手人差し指を針板ふたのつまみ下部付近に添えます。針板カバーの奥側にあるくぼみに左手の人差し指をかけます。左手の親指で針板カバーの手前を持ちます。



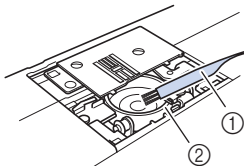
- 9 針板カバーを手前にスライドさせて取り外します。



- 10 内かまをつかみ、取り出します。



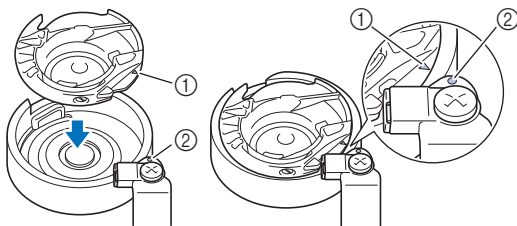
- 11 ミシンブラシや掃除機で、外かま周辺の糸くずやほこりを取り除きます。



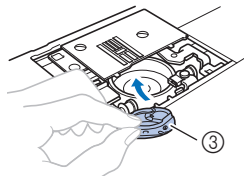
- ① ミシンブラシ
② 外かま

- 内かまに油をささないでください。

- 12 内かまの▲印とミシンの●印が合うように、内かまを取り付けます。



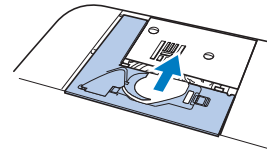
- ▲印と●印を合わせます。



- ① ▲印
② ●印
③ 内かま

- 合わせる位置を確認してから、取り付けを行ってください。

- 13 針板カバーの突起を針板に差し込み、そのままミシンに取り付けます。



- 14 針板ふたを元に戻します。

⚠ 注意

- 傷がついた内かまは使用しないでください。万一使用すると、上糸がからみ、針折れや縫製不良の原因となります。新しい内かまが必要な場合は、最寄りの販売店でお買い求め下さい。
- 内かまは正しい位置に取り付けてください。針折れの原因となります。

困ったとき

ミシンが思いどおりに動かないときは、修理を依頼する前に次の項目およびブラザーのサポートサイト（<https://s.brother/cpjas/>）の「よくあるご質問（Q&A）」を確認してください。

それでも改善されない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

■ よくあるご相談

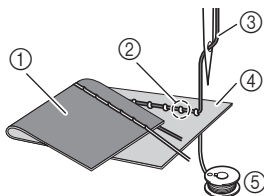
以下のよくあるご相談については、詳しい原因と対処方法を記載しております。お問い合わせの前にご確認ください。

上糸がつる	P.59 参照
布裏で糸がからまる	P.59 参照
糸調子が合わない	P.60 参照
布がミシンに入り込んでとれなくなった	P.61 参照
ボビン受け座の下に糸がからまってしまった	P.63 参照

上糸がつる

■ こんなとき

- ・ 上糸がピンと一本線になっている。
- ・ 布地の上側の面に下糸がポツポツと出ている。（下図参照）
- ・ 上糸がつっていて、引くと抜けてしまう。
- ・ 上糸がつっていて、布にしわがよってしまう。
- ・ 上糸が強く、糸調子を調節してぬい直してもまったく変わらない。



- ① 布地の下側の面
- ② 布地の上側の面に下糸が出ている
- ③ 上糸
- ④ 布地の上側の面
- ⑤ 下糸

■ 原因

下糸のセットがまちがっている

下糸のセットがまちがっていると、下糸に適正な張力が加わらず、上糸が引き上げられる際に布地まで一緒に引っ張られてしまいます。そのため、布地の上に糸が出てしまいます。

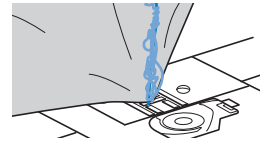
■ 対処方法／確認内容

下糸を正しくセットします（P.13 参照）。

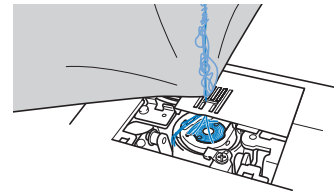
布裏で糸がからまる

■ こんなとき

- ・ 布の下側で糸がグチャグチャにからんでしまう。



- ・ ぬい始めるとすぐにガタガタと音がして進まなくなる。
- ・ 布地の下側を見ると、かまの中まで糸が何重にもからまっている。



■ 原因

上糸のセットがまちがっている

上糸のセットがまちがっていると、布地を貫通した上糸をしっかりと引き上げることができず、かまの中に上糸がたまり、グチャグチャにからんでしまい、ガタガタと音がします。

■ 対処方法／確認内容

からんだ糸を取り除き、上糸をセットし直します。

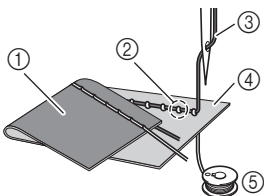
- ① からんだ糸を取り除きます。取れない場合は、はさみで糸を切ります。
 - ・ 「かまの掃除」（P.57）を参照してください。
- ② いったん上糸をミシンから取り外します。
- ③ 「上糸を通す」（P.15）の手順に従って、正しく上糸をセットします。
 - ・ ボビンを内かまから取り出した場合は、「下糸をセットする」（P.13）を参照して、正しくボビンをセットしてください。

糸調子が合わない

■ こんなとき

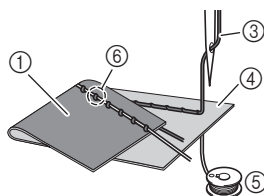
- 症状① 布地の上側にポツポツと下糸が出ている。
(下図参照)
- 症状② 布地の上側で上糸が直線になる。
- 症状③ 布地の下側にポツポツと上糸が出ている。
(下図参照)
- 症状④ 布地の下側で下糸が直線になる。
- 症状⑤ 布地の下側のぬい目がゆるい、またはたるむ。

□ 症状①



- ① 布地の下側の面
- ② 布地の上側の面に下糸が出ている
- ③ 上糸
- ④ 布地の上側の面
- ⑤ 下糸
- ⑥ 布地の下側の面に上糸が出ている

□ 症状③



■ 原因／対処方法／確認内容

□ 原因 1

糸が正しくミシンにセットされていない。

<症状①、②に該当する場合>

下糸が正しくセットされていません。

糸調子ダイヤルを「自動」にしてから、「上糸が
つる」(P.59)を参照してセットし直します。

<症状③～⑤に該当する場合>

上糸が正しく通っていません。

糸調子ダイヤルを「自動」にしてから、「布裏で糸
がからまる」(P.59)を参照して上糸をかけ直しま
す。

□ 原因 2

布地に合った糸や針を使用していない。

ミシン針は布地の種類や糸の太さによって使い分
けが必要です。

布地に合った糸と針を使用しないと、糸調子が合
わなかったり、布地にしわが寄ったり、目とびの
原因になったりします。

- 「布地と糸の種類による針の使い分け」(P.18)
の一覧表を参照して、布地に合った糸と針を使
用しているか確認してください。

□ 原因 3

上糸調子の設定値が適正でない。

適正な糸調子になるように調節します。

「糸調子を調節する」(P.30)を参照してください。

使用する布地／糸の種類やぬい方によって、適正
な糸調子は異なります。

- * 実際に使用する布地のはぎれで試しぬいをして、
糸調子を調節してください。

💡 お願い

- 上糸の通し方や下糸のセットが正しくされていな
い場合は、糸調子の調節が正しく行えません。上
糸かけ、下糸セットの確認を先に行ってから、糸
調子の調節を行ってください。

- 布地の上側に下糸が見える場合

糸調子ダイヤルを左に回し、糸調子を弱くします。



- 布地の下側に上糸が見える場合

糸調子ダイヤルを右に回し、糸調子を強くします。

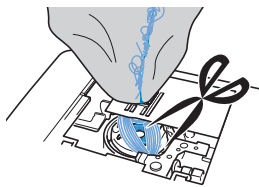


布がミシンに入り込んでとれなくなった

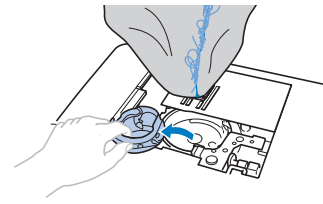
布がミシンに入り込んでとれない場合、糸が針板の下でからんでいることがあります。以下の手順で、布をミシンから取り外してください。操作が手順どおりに進まない場合は、無理に作業を続けず、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

■ 布をミシンから取り外す

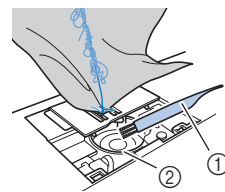
- 1 直ちにミシンを停止させます。
- 2 電源を切ります。
- 3 針を取り外します。
針が布に刺さっている場合は、プーリーを奥側（時計回り）に回して針を布から外してから、針を取り外してください。
・「針の交換」（P.19）を参照してください。
- 4 押えと押えホルダーを取り外します。
押えに糸がからみついている場合は、からんだ糸を取り除いてから、押えレバーを上げて押えを取り外してください。押えが破損するおそれがあります。
・「押えの交換」（P.20）を参照してください。
- 5 布を持ち上げて、布の下の糸を切ります。
ここで布を取り外すことができる場合は、取り外してください。次の手順へ進み、かまの掃除をします。
- 6 針板カバーを外します。
・「かまの掃除」（P.57）を参照してください。
- 7 からんだ糸を切ってボビンを取り出します。



- 8 内かまを取り出します。
内かまに糸が残っている場合は、取り除いてください。



- 9 ミシンブラシや掃除機で、外かま周辺の糸くずやほこりを取り除きます。



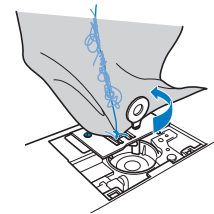
- ① ミシンブラシ
- ② 外かま

ここまでの手順で布を取り外せた場合	→ 手順 16 に進む
ここまでの手順で布が取り外せない場合	→ 手順 10 に進む

☀ お願い

- ・ 缶入り圧縮空気は使用しないでください。

- 10 ネジ回しを使用して、針板の 2 つのネジを取り外します。

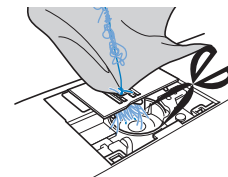


☀ お願い

- ・ 取り外したネジを、ミシンの中に落とさないように注意してください。

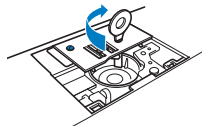
- 11 針板を少し持ち上げ、絡んだ糸を切って、針板を取り外します。

針板から布と糸を取ります。

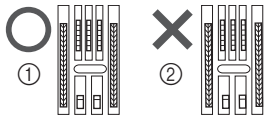


ここまでの手順を終えても布が取り外せない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

- 12 かまや送り歯のまわりの糸を取り除きます。
- 13 プーリーを回して、送り歯を上に戻します。
- 14 針板の2つのネジ穴を針板取付け部の2つの穴に合わせながら、ミシンに針板をはめ込みます。
- 15 針板の右側のネジを手で軽くしめます。次に、左側のネジをネジ回しでしっかりしめます。最後に右のネジもしっかりしめます。



プーリーを回して、送り歯が針板のミゾの端に当たらず、スムーズに動くことを確認してください。



- ① 正しい送り歯の位置
- ② 正しくない送り歯の位置


- 16 「かまの掃除」(P.57)の手順12のように、内かまを取り付けます。
- 17 針板カバーを取り付けます。(「かまの掃除」(P.57)の手順13参照)
- 18 針の状態を確認して、針をミシンに取り付けます。
曲がっているなど針が悪くなっている場合は、必ず新しい針を取り付けてください。
• 「正しい針の見分け方」(P.19) および「針の交換」(P.19)を参照してください。

お知らせ

- 布がミシンに入り込んだ際に、針が損傷しているおそれがありますので、新しい針に交換することをおすすめします。

■ ミシンの動作を確認する

針板を取り外したあとは、正しく取り付けられていることを確認するために、ミシンの動作確認をしてください。

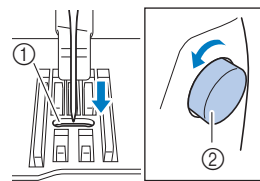
- 1 電源を入れます。
- 2 中基線の模様を選択します。

お願い


- 押えと糸は、まだミシンにセットしないでください。

- 3 プーリーをゆっくりと手前（時計と反対回り）に回し、針が針板の穴の中央に落ちることを左右前後から見て確認します。

針が針板に当たる場合は、もう一度針板を取り外し、「布をミシンから取り外す」(P.61)の手順13からやり直してください。



- ① 針板の穴
- ② プーリー

- 4 ジグザグ模様を選択します。このとき、ぬい目の長さとしずく幅を最大にしてください。

- 設定の変更については、「振り幅を調節する」(P.30) および「ぬい目の長さを調節する」(P.30)を参照してください。

- 5 プーリーをゆっくりと手前（時計と反対回り）に回し、針棒と送り歯が正しく動くことを確認します。

針や送り歯が針板に当たる場合は、ミシンの故障が考えられますので、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン119番）」にご相談ください。

- 6 電源を切ってから、押えホルダー、押え、ボビンをセットします。

傷がついたまたは破損した押えを使用しないでください。針折れや縫製不良の原因となります。

- 「押えの交換」(P.20) および「下糸をセットする」(P.13)を参照してください。

- 7 上糸をかけ直します。

- 上糸のかけ方については、「上糸通し」(P.15)を参照してください。

8 普通地で試しぬいをします。

お願い

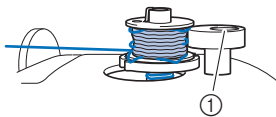
- 正しくぬえない場合、原因として、上糸が正しくセットされていないことや薄い布地を使用していることが考えられます。試しぬいの仕上がりが良くない場合は、上糸のかけ方や使用している布地を確認してください。

ボビン受け座の下に糸がからまってしまった

糸が下糸巻き案内の皿の下に確実に通っていない状態で下糸を巻くと、ボビン受け座の下に糸が巻かれてしまうことがあります。

⚠ 注意

- ボビン受け座の下に糸が巻かれても、ボビン受け座は外さないでください。受け座のカッターでけがをするおそれがあります。
- ボビンホルダーのネジは外さないでください。外すと、ミシンが故障するおそれがあります。ネジを外しても、糸はほどけません。



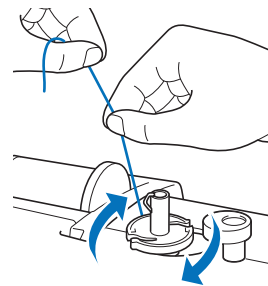
① ボビンホルダーのネジ

1 下糸巻きを停止します。

2 下糸巻き案内側で、はさみで糸を切ります。

3 ボビンを左側へ戻し、下糸巻き軸からボビンを抜きます。ボビンと軸の間で糸を切り、ボビンを軸から完全に取り外します。


4 図のように左手で糸端を持ち、右手でボビン受け座近くの糸をゆっくりと時計回りに回して、からまった糸をほどきます。



こんなときは

修理を依頼される前に、次の項目を点検してください。参照ページが「※」のときは、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」にご相談ください。

■ぬう前の準備

症状、原因（対処）	ページ
糸通しができない／針穴に糸が通らない	
針が正しい位置にない。 ・針上下スイッチを押して針を上げます。	6
針の取り付け方がまちがっている。	19
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	19
上糸の通し方がまちがっている。 糸通しレバーをいっぱいまで下げていない。	15
糸通しフックが曲がっていて針穴に通っていない。	※
糸通し装置が動かない。糸通し装置が戻らない。	※
9番の針を使用している。 ・糸通し装置に対応しない針です。手で糸を針穴に通してください。	16
下糸がボビンにきれいに巻けない	
下糸巻き案内に糸がしっかりかかっている。	12
下糸巻き案内から引き出した糸を正しくボビンに巻き付けていない。	12
ボビンが下糸巻き軸に正しくセットされていない。	11
下糸巻き中、ボビン受け座の下に下糸が巻かれた	
下糸巻き案内の皿に糸が正しく通っていない。 ・からまった糸をほどき、下糸巻きをします。	11、63
下糸を引き出すことができない	
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	19
下糸のセットのしかたがまちがっている。	13
液晶画面に何も表示されない	
電源スイッチが入っていない。	8
電源プラグがコンセントに差し込まれていない。	8
液晶画面がくもる	
液晶画面が結露している。 ・少し待つと、くもりはなくなります。	-
操作キーを押しても動かない、またはキーの反応が強すぎる	
手袋をはめた手でキーを押している。 つめでキーを押している。 静電容量式に対応していないタッチペンを使用している。 操作キーの感度が、使用される方に合っていない。	6、11
ライトが点灯しない	
設定画面で  (ライト) が [OFF] に設定されている。	10

■ぬっているとき

症状、原因（対処）	ページ
ミシンが動かない	
スタート/ストップスイッチを押していない。	26
下糸巻きを行った後、下糸巻き軸が右側のままになっている。	11
模様を選択されていない。	23
押えが下がっていない。	26
フットコントローラーを接続したままスタート/ストップスイッチを押している。	27
スピードコントロールレバーが振り幅を調節するように設定されている（振り幅コントロールが [ON] になっている）ときに、スタート/ストップスイッチを押している。	10、51
針が折れる	
針の取り付け方がまちがっている。	19
針のとめネジがゆるんでいる。	19
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	19
布地に合った針・糸を使用していない。	18
模様に合った押えを使用していない。	20
上糸調子が特に強すぎる。	30
布地を不当に引っ張っている。	-
糸こまが正しくセットされていない。	12
針板の穴の周辺にキズがある。 * 針板の穴の左端には、くぼみが設けられています。この部分はキズではありません。	※
	
押えの穴の周辺にキズがある。	※
内かまにキズがある。	※
本機純正のボビンを使用していない。	11
上糸の通し方がまちがっている。	15
下糸セットのしかたがまちがっている。	13
押えの取り付けがまちがっている。	20
押えホルダーのネジがゆるんでいる。	22
布地が厚すぎる。	18、33
厚地などの布地を縫製中に押しこんでいる。	33
ぬい目が細かすぎる。	30
下糸が正しく巻かれていない。	11

症状、原因 (対処)	ページ
上糸が切れる	
上糸の通し方がまちがっている (糸こまが正しくセットされていない、糸こま押えの大きさが合っていない、糸が針棒糸かけから外れているなど)。	15
糸にこぶや結び目がある。	-
針に比べて糸が太すぎる。	18
上糸調子が強すぎる。	30
糸がからまっている。	59
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	19
針の取り付け方がまちがっている。	19
針板の穴の周辺にキズがある。 * 針板の穴の左端には、くぼみが設けられています。この部分はキズではありません。	※
 ① くぼみ	※
押えの穴の周辺にキズがある。	※
内かまにキズがある。	※
布地に合った針・糸を使用していない。	18
本機純正のボピンを使用していない。	11
布裏で糸がからまる	
上糸の通し方がまちがっている。	15、59
布地に合った針・糸を使用していない。	18
上糸がつる	
下糸セットのしかたがまちがっている。	13、59
下糸が切れる	
下糸セットのしかたがまちがっている。	13
下糸が正しく巻かれていない。	11
キズのあるボピンを使用している。	13
糸がからまっている。	61
本機純正のボピンを使用していない。	11
布地にしわがよる	
上糸の通し方、または下糸のセットのしかたがまちがっている。	11、15
糸こまが正しくセットされていない。	12
布地に合った針・糸を使用していない。	18
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	19
薄地に対してぬい目があらずすぎる。	30
糸調子が合っていない。	30、60
模様にあった押えを使用していない。	20

症状、原因 (対処)	ページ
模様が正しくぬえない	
模様に合った押えを使用していない。	20
糸調子が合っていない。	30、60
内かまなどで糸がからまっている。	59
送り歯が下がっている。 ・ ドロップレバーを右 (▲▲) に動かします。	5、50
ぬい目が飛ぶ	
糸の通し方がまちがっている。	11、15
布地に合った針・糸を使用していない。	18
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	19
針の取り付け方がまちがっている。	19
針板の下にゴミがたまっている。	57
薄い布地や伸びる布地をぬっている。 ・ 布地の下に水性シート (不織布タイプ) をしいてぬいます。	33
ぬい目ができない	
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	19
下糸セットのしかたがまちがっている。	11
上糸の通し方がまちがっている。	15
ぬい音が高い/ガタガタと音がる	
送り歯にゴミがたまっている。	57
かまの部分に糸くずが巻きこまれている。	57
上糸の通し方がまちがっている。	15
本機純正のボピンを使用していない。	11
内かまに針が刺さった穴やスリキズがある。	※
布地を送らない	
送り歯が下がっている。 ・ ドロップレバーを右 (▲▲) に動かします。	5
ぬい目が細かすぎる。	30
模様に合った押えを使用していない。	20
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	19
糸がからまっている。	59
ぬい始めに段差があって、ジグザグ押えが傾いている。	33
布地が逆方向に送られる	
送り機構が故障した。	※
針が針板に当たる	
針のとめネジがゆるんでいる。	19
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	19
布がミシンに入り込んでとれない	
糸が針板の下でからんでいる。	61

症状、原因 (対処)	ページ
折れた針がミシンの中に落ちた	
<ul style="list-style-type: none"> ミシンの電源を切ってから、針板を外します。ミシンの中に落ちた針が見える場合は、ピンセットなどで取り出します。針を取り出したら、針板を元に戻し、新しい針を取り付けます。 電源を入れる前に、プーリーを手でゆっくり手前に回してなめらかに回るか、新しい針が針板の穴の中央を通るか確認してください。プーリーがなめらかに回らない場合やミシンの中に落ちた針を取り出せない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室 (ミシン 119 番)」にご相談ください。 	61
プーリーを回したときに重い	
糸がかまなどにからんでいる。	57、59、61

■ 仕上がり

症状、原因 (対処)	ページ
糸調子が合わない	
上糸の通し方がまちがっている。	15、60
下糸セットのしかたがまちがっている。	13、60
布地に合った針・糸を使用していない。	18
押えホルダーが正しく取り付けられていない。	22
糸調子が合っていない。	30、60
下糸が正しく巻かれていない。	11
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	19
本機純正のボビンを使用していない。	11
文字模様／飾り模様がくずれる	
模様に合った押えを使用していない。	35
模様が正しく調整されていない。	55
模様がくずれる	
模様に合った押えを使用していない。	20
薄い布地や伸びる布地をぬっている。 ・布地に接着芯を貼ります。	33
糸調子が合っていない。	30、60
ぬっている途中で布地を引っ張ったり押さえたり、布地がずれたりしている。 ・布地がまっすぐ送られるように、布に手を軽く添えてぬいます。	26
内かまなどで糸がからまっている	59

エラーメッセージ

誤った操作をしたときは、ミシンが止まり、エラーメッセージでお知らせします。エラーメッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

表示中のエラーメッセージは[OK]を押すか、正しい操作をすると消えます。

	エラーメッセージ	原因/対処
1	❗ 押えレバーを下げてください。	押えが上がっている状態で、スタート/ストップスイッチなどのスイッチを押したときに表示されます。
2	❗ これ以上組合せできません。	70 を超える飾り模様を組み合わせようとしたときに表示されます。
3	❗ 下糸巻き軸を左に戻してください。	下糸巻き軸を右にした状態で返しぬいスイッチ、止めぬいスイッチなどのスイッチを押したときに表示されます。
4	⚠ 説明書の「エラーメッセージ」をみてください。	上糸がかまにからんだり、針が曲がって針板に当たったなどでミシンが停止したときに表示されます。 「こんなときは」(P.64) を参照してください。
5	❗ フットコントローラーをはずしてください。	フットコントローラーを取り付けた状態で、スタート/ストップスイッチを押したときに表示されます。
6	❗ 振幅コントロールをOFFにしてください。	スピードコントロールレバーがジグザグの振り幅を調節するように設定されている状態でスタート/ストップスイッチを押したときに表示されます。 🌀 (振幅コントロール) を [OFF] にするか (P.10)、またはフットコントローラーでミシンを操作してください。
7	❗ ボタン穴かがりレバーを上げてください。	ボタン穴かがりレバーが下がった状態で、ボタン穴かがり以外の模様を選んで、スタート/ストップスイッチなどのスイッチを押したときに表示されます。
8	❗ ボタン穴かがりレバーを下げてください。	ボタン穴かがりレバーが上がった状態で、ボタン穴かがりの模様を選んで、スタート/ストップスイッチなどのスイッチを押したときに表示されます。

	エラーメッセージ	原因/対処
9	① 模様が消えます。 よろしいですか？	記憶されている模様を消去しようとしたときに表示されます。
10	① 模様の選択をキャンセルします。 よろしいですか？	模様のカテゴリーを切り替えたときに表示されます。
11	① 模様を選んでください。	模様を選択していない状態で、スタート/ストップスイッチなどのスイッチを押したときに表示されます。
12	F** (** の部分は、2桁の数字)	ミシンが故障していることが考えられますので、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」までお問い合わせください。

電子音について

正しい操作をしたとき「ピッ」と鳴ります。

誤った操作をしたときは、「ピッピッ」または「ピッピッピッピッ」と鳴ります。

糸がからむなどしてミシンがロックしたときは、「ピッピッピッ・・・」と7秒間鳴り続け、ミシンは自動的に止まります。必ず原因を確認して改善してから、再開してください。

仕様

項目	仕様
本体寸法	41.9 cm (幅) × 19.3 cm (奥行) × 30.7 cm (高さ)
製品質量	6.8 kg
ぬい速度	毎分 70 ~ 850 針
針	家庭用ミシン針 (HA × 1)
定格電圧/消費電力	100 V (50-60Hz) / 40 W
ライト	白色 LED

* 仕様は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

索引

あ		す	
厚い布地	33	スカラップ	54
アップリケ	48	スピード	12, 26
い		スピードコントロールレバー	6
糸	18	スマッキング	54
糸切り	27, 29	そ	
糸こま押え	12	掃除	57
糸調子	30, 60	外かま	58
糸通し装置	16	た	
糸密度	10	ダーニング (つくろいぬい)	52
う		たち目かがり	40
ウォーキングフット	49	ち	
薄い布地	33	直線ぬい	32, 35, 48
内かま	58	つ	
上糸	15, 18	つき合わせ	55
え		筒もの	31
液晶画面	6, 9	て	
エラーメッセージ	67	デニム	18, 33
お		電源	8
送り歯	5	電子音	68
押え	9, 20, 26, 35	と	
押えホルダー	5	止めぬい	28
お手入れ	57	ドロップレバー	5, 50
か		な	
返しぬい	28	ナイロン透明糸	12, 16, 18, 36
飾り模様	38	に	
かんどめ	52	ニット用針	18
き		ぬ	
キルター	50	ぬいしろの幅をそろえる	32
キルティング	49	ぬい目の長さ	30
け		布地	18, 33
言語	11	の	
こ		伸びる布地	33
困ったとき	59	は	
ゴムテープ	51	パッチワーク	48
さ		針	18, 19
サイズ	10	針板	5, 61
サテステッチ	10	針板カバー	5, 57
し		針位置	9, 32
シェルタック	54	ひ	
ジグザグぬい	30, 51	ピーシング	48
下糸	11	皮革	34
下糸セット	13	ビニール	34
下糸巻き	11		
下糸巻き案内	11		
下糸を引き出す	17		
しつけぬい	35		

ふ

ファゴティング	53
ファスナー	46
付属品	7
フットコントローラー	27
フリーモーションキルト	50
振り幅	30

へ

別売品	7
-----------	---

ほ

ボタン穴かがり	42
ボタンつけ	45
ボビン	11

ま

まつりぬい	41
-------------	----

み

ミラーリング	10
--------------	----

め

メタリック糸	16
--------------	----

も

文字間	10
模様の種類	23

ら

ライト	10
-----------	----



ブラザーのサポートサイトでは、製品に関する様々な情報（サポート動画、Q&A 等）を掲載しております。



■ 製品トップ

<https://s.brother/cpjas/>



下糸巻き&下糸セットのサポート動画を見るときは

<https://s.brother/cfjka/>



上糸通しのサポート動画を見るときは

<https://s.brother/cfjkb/>



よくあるご質問（Q&A）を見るときは

<https://s.brother/cfjas/>



アフターサービス

修理を依頼するときや部品を購入するときは、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にお問い合わせください。

■ 保証書について

- ご購入の際、保証書にお買い上げ日、販売店名などが記入してあるかご確認の上、販売店で受け取ってください。保証書の内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。
- 当社はこのミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り後最低 8 年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理については、お買い上げの販売店、または下記の「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

■ お客様相談室（ミシン119番）

本製品の使い方やアフターサービスについてご不明の場合は
お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」までお問い合わせください。

〒467-8577 愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1

お客様相談室（ミシン119番） Tel: 0570-061-134

お問い合わせ窓口 <https://s.brother/crgka/>

受付時間: 月曜日～金曜日 9:00～12:00 13:00～17:00

休業日: 土曜日、日曜日、祝日およびブラザー販売株式会社の休日



- お客様相談室（ミシン119番）は、ブラザー販売株式会社が運営しています。
- 機能および操作方法が機種によって異なるため、お問い合わせの際に「機種名」と「機械番号」をご連絡いただきますと、スムーズにお答えすることができます。
ミシン背面の定格ハリマーク（銀色シール）の下記部分をご確認ください。



- ブラザー製品についてのご意見、ご要望は、お買い上げの販売店、または上記「お客様相談室（ミシン119番）」にご連絡ください。
- 上記の電話番号、住所および受付時間は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

■ ホームページ

ブラザーのホームページでは、製品に関する様々な情報を掲載しております。

<https://www.brother.co.jp/>

弊社サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）では、製品に関するサポート情報を掲載しております。

<https://s.brother/cpjas/>



Brother SupportCenterは、ブラザー製品のサポート情報（取扱説明ビデオやよくあるご質問など）を提供するモバイルアプリです。ダウンロードするにはApp StoreまたはGoogle Play™にアクセスしてください。

